

No. 004

ウルグアイ東方共和国消化器病センター
プロジェクトフォローアップ調査
専門家チーム報告書

平成2年3月

国際協力事業団
医療協力部

ARY

医 協
JR
89-19

JICA LIBRARY



1084315191

21454

ウルグアイ東方共和国消化器病センター

プロジェクト フォローアップ調査

専門家チーム報告書

平成2年3月

国際協力事業団

医療協力部

国際協力事業団

21454

序 文

ウルグアイ東方共和国政府は、死因別死亡率において消化器系疾患の死亡率が極めて高く、同国の保健医療政策上、緊急に改善を図るべき課題であるとして、既存の共和国大学医学部附属病院に消化器病センターの設置を計画し、消化器病診断・治療技術の向上と専門医の教育、養成及び再教育を通して、全国的な診療体制の充実を図ることを目的に、我が国に対し、プロジェクト方式技術協力要請越した。

右要請に基づき、我が国は、昭和59（1984）年4月1日から5ヶ年間にわたり、消化器病診断・治療に係る技術協力を実施し、昭和63年11月のプロジェクト評価の結果、1)食道癌、大腸癌の早期診断及び、2)胆嚢胆管結石の内視鏡的診断・治療面での平成元年4月1日より1年間のフォローアップ協力が日ウ双方で合意された。

今次の調査専門家チームは、過去1年間にわたるフォローアップ協力効果を測定し、目標達成度を判定するとともに、全期間にわたるプロジェクトの総合評価を実施する目的で派遣されたものである。

本報告書は、右専門家チームが実施した調査及び協議内容とその結果等につき取り纏めたものである。

ここに、本件調査にあたり、御協力を賜った関係各位に対し、深甚なる謝意を表するとともに、今後とも本件協力事業のために、更なる御支援をお願いする次第である。

平成2年3月

国際協力事業団

医療協力部長

近藤健文



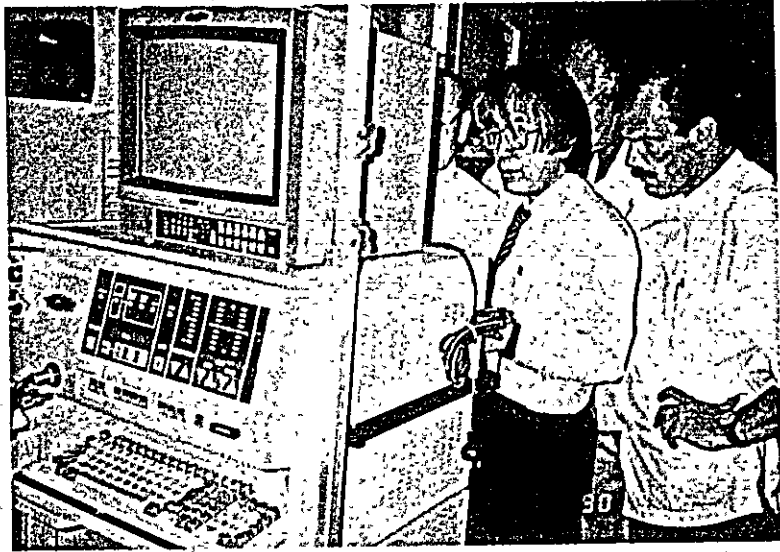
フォローアップ協力評価合同協議（左から大柴リーダー、
今津館員、Dr. Hugo Villar 院長）



ウルクアイ側カウンダーバードによる研究発表会へ参加



フォローアップ協力ジョイントエバリュエーションレポート
及び延長フォローアップ協議議事録（ミニッツ）署名・交換
（左から大柴リーダー、今津館員、Dr. Hugo Villar 院長）



平成元年度供与機材（内視鏡ビデオシステム）の据付・調整（左から丸山専門家、Dr. Horacio Gutierrez 消化器内視鏡科助教授）



平成元年度供与機材（内視鏡ビデオシステム）の据付・調整（左から大柴リーダー、望月専門家、Dr. Horacio Gutierrez 助教授）



既供与機材の利用・管理状況を調査する専門家チーム

目 次

1. フォローアップ調査専門家チームの派遣	1
1-1 専門家チーム派遣の経緯と目的	1
1-2 調査内容	2
1-3 専門家チームの構成	3
1-4 調査日程表	3
1-5 主要面談者	4
2. 要 約	6
2-1 先方実施体制を含めたプロジェクトの現況	6
2-2 フォローアップ協力期間の技術協力の成果	9
2-3 技術協力計画の進捗状況	11
2-4 延長フォローアップ協力期間（平成2年度）の技術協力実行計画	13
3. プロジェクト実施上の課題	14
3-1 フォローアップ調査専門家チームの対処方針	14
3-2 プロジェクトの進捗状況	24
3-3 課題と対策	25
3-4 供与資機材の利用・管理状況	25
4. フォローアップ協力の評価	27
4-1 フォローアップ協力当初計画と実績との比較	27
4-2 評価の総括	28
4-3 取るべき措置	28
4-4 結 論	28
5. 教訓及び提言等	30
5-1 計画策定に関するもの	30
5-2 実施及び実施管理に関するもの	30
5-3 延長フォローアップ協力に関するもの	30

6. 合同委員会の協議事項	32
6-1 経緯と概要	32

附属資料

① フォローアップ協力ジョイント エバリュエーション レポート	35
② フォローアップ協力延長に係る協議議事録 (ミニッツ)	53
③ 実施協議調査団討議議事録 (R/D) 及び暫定実施計画 (T S I)	61
④ 1986年4月派遣計画打合せ調査団協議議事録 (ミニッツ) 及び暫定実施計画 (T S I)	79
⑤ 1988年11月派遣評価調査団ジョイント エバリュエーション レポート 及びフォローアップ協力に係る協議議事録 (ミニッツ)	85
⑥ 共和国大学医学部附属病院消化器病センター消化器内視鏡科 における検査統計資料	107
⑦ 平成元年度 (フォローアップ協力) 供与機材リスト	113

1. フォローアップ調査専門家チームの派遣

1-1 専門家チーム派遣の経緯と目的

ウルグアイ東方共和国では、死因別死亡率において消化器系疾患の死亡率が著しく高いことから、同国の保健医療政策の上で緊急に改善を図るべき課題となっている。

かかる事情を背景に、ウルグアイ政府は同国唯一の国立大学であるウルグアイ東方共和国大学の医学部附属病院“Hospital de Clinicas Dr. Manuel Quintela”内に、消化器内科（内視鏡学）を中心に、放射線医学、消化管病理学、臨床検査等関連部門を統合した「消化器病センター」（CENTER FOR THE STUDY OF G. I. DISEASES）を創設し、既存の消化器病科自体のレベル・アップを図るとともに、専門医コース履修者の教育と既存専門医の再教育を通じ、全国的診療体制の改善を計画し、内視鏡、X線診断装置、超音波診断装置等の医療機器を駆使した消化器病診断・治療技術面で国際的に指導的立場にある我が国に対し、昭和57年5月にプロジェクト方式技術協力を要請越した。

右要請を受け、国際協力事業団は、本件協力の必要性、妥当性の調査を目的に、昭和58年7月28日から8月7日まで順天堂大学医学部教授（当時）白壁彦夫氏を団長とする事前調査団、さらに、前記調査の結果を踏まえ、技術協力プロジェクトを発足させるため、昭和59年1月6日から1月16日まで大阪医科大学第二内科教授大柴三郎氏を団長とする実施協議調査団を派遣し、同調査団長とウルグアイ国政府機関代表者との間で同年1月12日に署名・交換された討議議事録（R/D）及び暫定実施計画に基づき、消化器病センターに係る5ヶ年間の技術協力が実施される運びとなった。

本件協力事業は、共和国大学医学部附属病院“Hospital de Clinicas Dr. Manuel Quintela”に新設された「消化器病センター」への技術協力を通じ、消化器病診断・治療技術水準の向上、専門医の教育と養成、全国的水準での診療体制の充実を図るものである。

なお、平成元年3月31日の協力終了日を控え、昭和63年11月4日から11月12日まで大阪医科大学第二内科教授大柴三郎氏を団長とする評価調査団を派遣し、当初のプロジェクト設定目標に対する協力実施過程における実績と内容の調査、確認及び先方実施機関との協議を通じ、過去5年間の協力効果の測定を行なうとともに、終了後の本件協力事業の相手側への引き渡しの可能性を検討した結果、ウルグアイ官民は同国の医療に対しての本プロジェクトの意義を高く評価しているとともに、先方実施機関はプロジェクトが成功裡に行なわれるため最善を尽くしてきており、R/Dが設定した所期の目標が達成段階にあることが判明した。

一方、同目標達成のため、また、ウルグアイ国において食道癌、大腸癌発生数が増大しつつある現状を考慮し、(1)食道癌、大腸癌の早期診断、(2)胆嚢胆管結石の内視鏡的診断・治療に係る協力をを行うこととなり、平成元年4月1日から平成2年3月31日までの協力期間をもってフォロー

アップ協力実施中である。

今般、上記フォローアップ協力が平成2年3月31日で終了することに伴い、プロジェクトの現況調査及び先方実施機関関係者との合同協議を通じ、フォローアップ協力効果の測定、協力目標の達成度の把握、確認等を行ない、その結果、本件協力の継続が必要と判断される場合には、その対処方につき先方実施機関と協議することを目的として、平成2年3月2日から3月10日まで、大阪医科大学第二内科教授大柴三郎氏を団長とするフォローアップ協力評価専門家チームを現地に派遣した。

具体的には、下記諸事項につき調査及びウルグアイ側関係者と協議を行うこととした。

1. 各協力分野の活動実績の調査及び評価に基づき、フォローアップ協力の目標達成度を判定する。
2. ウルグアイ側負担による消化器病センターの施設整備状況の調査及び技術協力による供与機材の利用・管理状況の調査。
3. 延長フォローアップ協力計画の策定（専門家派遣、研修員受入れ、機材供与）。

1-2 調査内容

本調査においては、下記諸事項につき、ウルグアイ側関係者と協議を行い、右協議結果をフォローアップ協力ジョイントエバリュエーションレポート及び延長フォローアップ協力に係る協議議事録（ミニッツ）に取り纏めることとした。

(1) 先方実施機関（医学部附属病院消化器病センター）の運営管理状況

① 組織

② 予算措置

③ 施設整備

④ カウンターパート配置

(2) フォローアップ協力期間の技術協力の成果

① 食道癌の早期診断

② 大腸癌の早期診断

③ 胆嚢胆管結石の内視鏡的診断・治療

(3) 技術協力計画の進捗状況（フォローアップ協力期間）

① 専門家派遣

② カウンターパート研修員受入れ

③ 機材供与

(4) フォローアップ協力延長期間(平成2年4月1日から同年12月31日まで)の技術協力実行計画

① 技術移転目標（ターゲット）

② 協力期間

3) 日本側投入計画

- ① 専門家派遣
- ② カウンターパート研修員受入れ
- ③ 機材供与

(5) その他

1-3 専門家チームの構成

担当業務	氏名	所属先
団 長 総括 (内視鏡学)	大柴 三 郎	大阪医科大学第二内科 教授
団 員 内視鏡学	望月 福 治	(財)仙台市医療センター仙台オープン病院 副院長
団 員 内科学	丸山 雅 一	(財)癌研究会附属病院内科 医 長
団 員 技術協力	金子 健 二	国際協力事業団 医療協力部医療協力課 職 員

1-4 調査日程表

日順	月 日	曜日	行 程
1	3月2日	金	成 田 発 (19:00) RG-831
2	3日	土	リオデジャネイロ着 (06:15) 同 発 (09:00) RG-910 モンテヴィデオ着 (13:50) 16:00 調査日程、対処方針打合せ (於: Hotel Internacional, 長島忠之書記官同席)
3	4日	日	資 料 整 理
4	5日	月	09:00 第一回合同協議 (於: 医学部附属病院 消化器病センター会議室、 Dr. Hugo Villar院長以下各部門主任教授が出席) 消化器病センターの年次活動報告及び既供与機材の利用・ 管理状況報告 14:00 ジョイントエバリュエーションレポートの内容検討・作成
5	6日	火	08:50 TV Endoscope (元年度供与機材) 据付・調整 (丸山、望月両専門家) 09:00 第二回合同協議 (於: 消化器病センター会議室、Dr. Hugo Villar院長以下各 科主任教授が出席) フォローアップ協力の評価及びフォローアップ協力期間の 延長について

日順	月 日	曜日	行 程
5	3月6日	火	11:00 ウルグアイ側カウンターパートによる研究報告 (於: 附属病院6階階段教室) 14:00 フォローアップ協力延長に係る協議議事録(ミニッツ)案 作成・タイプ 17:30 ウルグアイ東方共和国大学総長 (Dr. Jorge Brovetto)表敬 (於: 大学本部) 18:30 共和国大学医学部長 (Dr. Carlevaro) 表敬 (於: 医学部) 19:30 広岡欣之助日本大使表敬、併せて調査結果報告 (於: 大使公邸)
6	7日	水	09:00 COORDINATING COMMITTEE開催 (於: 消化器病センター会議室、Dr. Hugo Villar院長、 Dr. Lorenzo Peri センター所長、各部門主任教授、専門家 チーム、今津在ウルグアイ日本大使館職員 出席) 10:30 ジョイントエバリュエーションレポート及び協議議事録 (ミニッツ)署名・交換 (Dr. Hugo Villar院長と大柴リーダ ーにより署名) 11:00 医学部附属病院 "Hospital de Clinicas" の現有施設及び 消化器病センター各科検査室を視察 (既供与機材の利用・ 管理状況のチェック) 16:00 在ウルグアイ日本大使館に帰国報告
7	8日	木	09:00 消化器病センターDr. Lorenzo Peri所長、内視鏡科Dr. Horacio Gutierrez 主任と最終打合せ モンテヴィデオ発 (15:50) RG-911 リオデジャネイロ着 (20:20) リオデジャネイロ発 (23:45) RG-834
9	10日	土	成 田 着 (13:30)

1-5 主要面談者

(ウルグアイ側)

共和国大学 総 長	Dr. Jorge Brovetto
共和国大学 医学部長	Dr. Pablo Carlevaro
共和国大学 医学部附属病院長	Dr. Hugo Villar
同病院 消化器病部 主任教授 兼消化器病センター所長	Dr. Lorenzo Peri
同病院 病 理 部 主任教授	Dr. Nelson Reissenweber
同病院 臨床検査部 主任教授	Dr. Lucas Acosta
同病院 放射線診断部 主任教授	Dr. Eduardo Curuchet

同病院 消化器病センター
消化器内視鏡科 助教授

同病院 消化器病部 准教授

同病院 消化器病部 准教授

(日本側)

在ウルグアイ東方共和国日本大使館

特命全権大使

参事官

二等書記官

館員

Dr. Horacio Gutierrez Galiana

Dra. Elena Fosman

Dr. Elbio Zaballos

広岡 欣之助

平松 弘行

長島 忠之

今津 健彦

2. 要 約

本専門家チームは、平成2年(1990)3月3日から3月8日まで6日間、ウルグアイ東方共和国首都モンテヴィデオに滞在し、ウルグアイ側実施機関関係者と協議を行い、1章で示したフォローアップ協力評価事項に関する調査を実施した。

よって、その調査結果および協議内容についての要約を以下に示すこととする。

2-1 先方実施体制を含めたプロジェクトの現況

1) 共和国大学医学部附属病院消化器病センターの運営管理状況

① 組 織

ウルグアイ国唯一の国立大学である東方共和国大学医学部附属病院内に設立された消化器病センター (CENTRO DE ESTUDIO INTEGRAL DE LAS ENFERMEDADES DIGESTIVAS、略称 CEIDE) は、消化器病部の他に、放射線診断部、臨床検査部及び病理部の各部門を統合したものである。

1990年3月現在の消化器病センターの組織図は以下の通りである。

DIRECTOR DEL HOSPITAL DE CLINICAS

Dr. Hugo VILLAR

DIRECTOR DE LA CLINICA DE NUTRICION Y DIGESTIVO - C. E. I. E. D.

Prof. Dr. Lorenzo PERI

Prof. Agda. Dra. Elena FOSMAN
Prof. Agdo. Dr. Elbio ZEBALLOS

RADIOLOGIA: Dr. Eduardo CURUCHET
LABORATORIO CLINICO: Dr. Lucas ACOSTA
ANATOMIA PATOLOGICA: Dr. Nelson REINSENWEBER

INTERNACION

Dr. Luis ANTONIELLO
Dr. Antonio ATILIO
Dra. Martha RIBEIRO
Dra. Ivanah Kliche

ENDOSCOPIA

Dr. Horacio GUTIERREZ
Dra. Graciela VAZQUEZ
Dr. Daniel TAULLARD
Dr. Eduardo FENOCCHI

POLICLINICA

Dra. Yolanda GONZALEZ
Dra. Elena TRUCCO

NUTRICION

Dr. Juan P. RUBINSTEIN
(honorario)

ECOGRAFIA

Dr. Henry COHEN
(honorario)
Dr. Luis ANTONIELLO

Ayudante de Profesor: Dra. Lilián IGLESIAS

Ayudante de Clase: Dra. María A. MACHADO

Administrativos: Sr. Ernesto SALAVERRIA - Sra. Isabel HERAS - Sra. Elsa CUBAS

Secretario de Dirección: Sr. Carlos DACHS

Abril de 1990

② 予算措置

消化器病センターは、共和国大学医学部附属病院 Hospital de Clinicas "Dr. Manuel Quintela" の消化器病専門診断・研究機関として位置付けられており、病院長及び消化器病センター所長を兼任する消化器病部門主任教授が、同センターの運営・管理に責任を持つ体制にあるとともに、予算執行等を含め医学部附属病院の一部となっている。

なお、今後の先方のローカルコスト負担については、既供与機材の保守・維持管理、消耗部品、消耗品の自己調達及び消化器病研究活動促進に係る十分な予算措置が継続的に望まれる。

③ 施設整備

共和国大学医学部附属病院は、1930年に建設が着手され、1936年から数年間、第二次世界大戦のため休止した後、1950年に完成した地上23階、地下2階の建物（附属ビルを併せ104,101㎡）である。病棟は病床数750床余りで運営されており、同病院が共和国大学医学部の教育病院となっていることもあり、他のスペースは教室等他の用途にも向けられている。

消化器病センターは、同病院4階に設置されており、病院内外から依頼されX線検査、内視鏡検査、超音波検査等を日本側からの供与機材を活用して実施しており、同センターは地域医療に欠かせない存在となっている。

消化器病センターを含めた病院内部・検査施設は、清潔に保たれており、医療施設も比較的充実している。

④ カウンターパート配置

現在90名余りのウルグアイ側カウンターパートが本プロジェクトの効果的運営と消化器病診断・治療技術向上を目指し、従事している。

消化器病センターの人員配置は適正で、本プロジェクトを円滑に実施していくに必要な質と量が確保されている。

なお、専門部門別のウルグアイ側カウンターパートの氏名については下記参照のこと。

CLINICA DE NUTRICION Y DIGESTIVO

Director-Profesor	Dr. Lorenzo PERI	Chief Professor
Prof. Agregado	Dra. Elena FOSMAN	Associate Professor
" "	Dr. Elbio ZEBALLOS	" "
Prof. Adjunto	Dr. Horacio GUTIERREZ	Assistant Professor
" "	Dra. Graciela VAZQUEZ	" "
Asistente	Dra. Elena TRUCCO	Fellow
" "	Dr. Luis ANTONIELLO	" "
" "	Dr. Daniel TAULLARD	" "
" "	Dr. Eduardo FENOCCHI	" "
" "	Dra. Martha RIBEIRO	" "
" "	Dra. Ivanah Kliche	" "
" "	Dr. Antonio ATILIO	" "
" "	Dra. Yolanda GONZALEZ	" "
Ayudante de Profesor	Dra. Lilián IGLESIAS	Secretary Professor
" " Clase	Dra. María A. MACHADO	" "
Administrativo	Sr. Ernesto SALAVERRIA	Administrative
" "	Sra. Isabel HERAS	" "
" "	Sra. Elsa CUBAS	" "
Secretario de Director	Sr. Carlos DACHS	Secretary Professor

ANATOMIA PATOLOGICA

Director-Prof. Agregado	Dr. Nelson REISSENWEBER	Chief Professor
Prof. Agregado	Dr. Héctor NAVARRETE	Associate Professor
" "	Dra. Carmen ALVAREZ	" "
" "	Dr. Carlos PIZZAROSSA	" "
" "	Dra. Graciela MANANA	" "
" "	Dr. Luis VARCELLI	" "
Prof. Adjunto	Dra. María Iraola	Assistant Professor
" "	Dra. Helene CHIOSSONI	" "
" "	Dr. Hugo DENEÓ	" "
" "	Dra. Gisele ACOSTA	" "
" "	Dra. Isabel FERNANDEZ	" "
" "	Dr. Roberto BONAVA	" "
" "	Dra. Haydee KLEMPER	" "
" "	Dra. Graciela GRAGLIA	" "
" "	Dra. Ana RODRIGUEZ	" "
" "	Dr. Eduardo LAPIEDRA	" "
Asistente	Dr. Julio RODRIGUEZ	Fellow
" "	Dra. Mariela RONDAN	" "
" "	Dra. Ana MARINO	" "
" "	Dr. Gonzalo ARDAO	" "
" "	Dra. Elsa PARIAS	" "
" "	Dra. Sylvia MAUTONE	" "
" "	Dra. María José GUERRA	" "
" "	Dr. Duncan BALBI	" "
" "	Dra. Carmen GUTIERREZ	" "
" "	Br. Gerardo LOPEZ	" "
" "	Dra. Laura MENDEZ	" "
" "	Br. Dardo CENTURION	" "
" "	Dra. Noemí MAEDO	" "
Residente	Dra. Laura MAZZONI	Resident
" "	Dra. Eliza LACA	" "
" "	Dra. María DINARDI	" "
" "	Dra. Elena GÉVAZ	" "
" "	Br. Gabriela DIAZ	" "
" "	Dra. Mery GATENO	" "
" "	Br. Verónica GARCIA	" "
Ayudante de Clase	Br. Mario ECHENIQUE	Secretary Professor
" " "	Br. Graciela VOLPI	" "
" " "	Br. Benedica CASERTA	" "
" " "	Br. Silvia GARCIA	" "
" " "	Br. Heriberto MEYER	" "
" " "	Br. Carina DI MATTEO	" "
" " "	Br. Fernando DIAZ	" "

LABORATORIO CLINICO

Director-Profesor	Dr. Lucas ACOSTA	Chief Professor
Profesor Agregado	Dr. José PIQUINELA	Associate Professor
" "	Dr. Carlos CHIGGINO	" "
" "	Dra. Susana FAZZIO	" "
" "	Dr. Walter ALALLON	" "
" "	Dr. David SEMPOL	" "
Profesor Adjunto	Q. F. Lydia DIBARRAT	Assistant Professor
" "	Dr. Julio GALLO	" "
" "	Dra. Gladys OYAMBURO	" "
" "	Q. F. María Ida RODRIGUEZ	" "
" "	Dr. Carlos SERE	" "
" "	Dra. Ana María SIRI	" "
" "	Dr. Carlos KRUL	" "
" "	Dr. Roberto CABRERA	" "
Asistente	Dra. María J. RETHENCURT	Fellow
" "	Q. F. María E. VIVERO	" "
" "	Dr. Alvaro QUINTANA	" "
" "	Dr. Gerardo CHANS	" "

"	Dra. Edith RICHARD	"
"	Dr. Juan C. CAZERES	"
"	Dra. Graciela PEDREIRA	"
"	Dra. Beatriz DEFRANCO	"
"	Dr. Alejandro GUGLIUCCI	"
"	Q. F. Elizabeth LOPEZ	"
"	Dra. Teresita MENINI	"
"	Dr. Carlos SCOTTI	"
"	Dr. Daniel RUGGIERO	"
"	Q. F. Cristina SERVETTO	"
"	Dra. Cora GULLA	"
"	Dra. Alicia OLASCOAGA	"
"	Dra. Isabel VIGNA	"
"	Dra. Elena CARRETTO	"

RADIOLOGIA

Director-Profesor	Dr. Eduardo CURUCHET	Chief Professor
Prof. Agregado	Dr. Andrés De TENYI	Associate Professor
" "	Dr. E. TISCORNIA	" "
" "	Dr. Mario SALICE	" "
Prof. Adjunto	Dra. Alicia DELGADO	Assistant Professor
" "	Dra. A. WOSNIACK	" "
" "	Dr. J. ZUBIAURRE	" "
" "	Dr. J. CROSA	" "
" "	Dr. R. ALFONSO	" "
Asistente	Dra. I. MARTINEZ	Fellow
" "	Dra. L. ACOSTA	"
" "	Dra. E. RODRIGUEZ	"
" "	Dra. N. DI TRAPANI	"
" "	Dr. Daniel MACCHI	"
" "	Dra. Sonia CAPUTTI	"
" "	Dra. Edith WARREN	"
Ayudante de Profesor	Dra. A. STRATA	Secretary Professor
Residente	Dr. Carlos BRIGNONI	Resident

2-2. フォローアップ協力期間の技術協力の成果

1) 食道癌の早期診断

(背景)

ウルグアイ国は食道癌の多発国で、人口300万人弱に対して毎年300人強の食道癌死亡がある。また、同国では食道癌死亡頻度の高い地方(北部)が知られており、対象人口の少ない点からしても早期診断は容易である。

しかし、これまで、診断技術がなく、診断の対象となる食道癌患者の多くは極めて進行した癌で、外科治療すること自体が困難であり、食道癌切除率は不明であるが、手術死亡率は30%以上と高く、極めて深刻な状況にあった。

(フォローアップ協力の成果)

高いリスクを有するグループ(1,315名)に対し、色素内視鏡検査を施行した結果、3例の食道表在癌が発見された。

内視鏡診断の後、放射線検査が行なわれ、前記した内視鏡診断を確証するX線画像が得られた。

また、生検組織の病理検査は、これが腫瘍であることを裏付けた。

さらに、外科的に切除され、病理学的に検索した結果、(表存・進行性食道癌検査の日本規準を適用すると) 両症例とも食道表存癌 (m, sm) であることが証明された。

これら2症例の食道表存癌は、近年10年間、共和国大学医学部附属病院において初めて発見されたものである。

これは、食道癌の多発地域での早期診断技術の移転を目指した本件プロジェクトフォローアップ協力の大きな成果である。

2) 大腸癌の早期診断

(フォローアップ協力の成果)

腫瘍病変発見のため、940名の患者に対し、大腸直腸内視鏡検査が施行された。

しかし、ここで大腸直腸癌診断に関するフォローアップ協力の評価結果を記するまでには至らず、現有するデータは完全な評価のためには未だ不十分である。

一方、X線二重造影技術は、ポリープ病変において3例の早期大腸癌の発見を可能にした。このことは、病理検査によってもX線二重造影での診断を証明した。

(今後の対応方針)

大腸直腸内視鏡検査では、大腸に関しては早期癌の発見は未だ1例もなく、今後さらなる強力な技術移転の必要性があるものと考えられた。特に前処置が悪いことは、派遣された専門家の報告にもみられ、従って、わが国で日常的な大腸のポリペクトミーが行われていない現状である。

3) 胆嚢胆管結石の内視鏡的診断・治療

(背景)

ウルグアイ国では、40才以上の女性の胆石保有率は40%にも及ぶと推測される。

総胆管結石の嵌頓による黄疸患者も多く、ERCP施行患者は、全例ESTが用意されているのが現状である。

(フォローアップ協力の成果)

594名の患者に対し、ERCP(内視鏡的膵胆管造影)が施行され、胆道結石診断(CBDS)は190名に、ESTは44名に施行され、結石の除去は、67.6%の率で成功を収めた。

1990年においては、内視鏡的胆道ドレナージ(EBD)が初めて5例施行された。

すべてこれらの検査は、同病院放射線診断部との合同で施行された。

また、18名の胆癌患者はPTC(ドレナージ有・無)で検査され、2症例において病理学的診断(1例は胞虫結石、他は結石)がもたらされた。

さらに、任意抽出した比較研究は、U.S.、T.C.、ERCP、PTCの診断能力の評価のために立案された。

胆嚢胆管疾患に関しては、適切な診断・治療がなされ、かつ、系統的な研究も行われており、将来の成果が期待された。

2-3 技術協力計画の進捗状況（フォローアップ協力期間）

1) 専門家派遣

2-2 に示した消化器疾患の診断・治療技術移転を目的に、5月及び11月に短期専門家チームを派遣した。

以下に、フォローアップ協力期間中の専門家派遣実績を記す。

長短区分	氏名	指導科目	派遣期間	所属先
長期専門家	長谷川 銑穂	プロジェクト 運営・管理	1988. 4. 24～ 1989. 5. 31	外務省経済協力局 技術協力課
短期専門家	岩越 一彦	内視鏡学	1989. 5. 24～ 1989. 6. 4	労働福祉事業団 神戸労災病院 消化器内科 部長
	多田 秀樹	内視鏡学	1989. 5. 24～ 1989. 6. 4	大阪医科大学附属病院 第二内科学教室 助手
	浜田 勉	放射線医学	1989. 5. 24～ 1989. 6. 4	順天堂大学医学部附属病院 消化器内科 講師
	八巻 悟郎	放射線医学	1989. 5. 24～ 1989. 6. 4	虎の門病院 放射線診断科 医員
	吉田 操	内視鏡学	1989. 11. 27～ 1989. 12. 8	東京都立駒込病院 外科医長
	海上 雅光	消化管病理学	1989. 11. 27～ 1989. 12. 8	虎の門病院 病理部 医員
	鶴田 修	消化管病理学	1989. 11. 27～ 1989. 12. 8	久留米大学医学部 第二病理 助手
	李 茂基	内視鏡学	1989. 11. 27～ 1989. 12. 8	(財)仙台市医療センター 仙台マナ病院 消化器内科医長

2) カウンターパート研修員受入れ

以下に、フォローアップ協力期間中の研修員受入れ実績を示す。

年度	氏名	研修科目	研修期間	受入機関
平成 元年	Dr. Lorenzo Peri	内視鏡学	1989. 6. 7～ 1989. 7. 4	大阪医科大学 仙台オープン病院
	Dr. Horacio Gutierrez Galiana	内視鏡学	1989. 6. 7～ 1989. 7. 4	大阪医科大学 仙台オープン病院
	Dr. Alberto Carbo	超音波診断学	1990. 3. 15～ 1990. 4. 15	順天堂大学

3) 機材供与

以下に、フォローアップ協力期間中の機材供与実績を示す。

I. 内視鏡ビデオシステム関連

番号	機 材 名	メーカー名	数 量
1-1)	ビデオシステムセンター	オリンパス	1
1-2)	TVモニター	ソニー	1
1-3)	ビデオイメージ上部消化管汎用スコープ	オリンパス	1
1-4)	ビデオイメージ大腸スコープ	オリンパス	1
1-5)	ビデオイメージ十二指腸スコープ	オリンパス	1

II. 内視鏡テレビ・ビデオセット

1-1)	上部消化管ファイバースコープ	オリンパス	1
1-2)	十二指腸ファイバースコープ	オリンパス	1
2	サクションポンプ	オリンパス	1
3	メディカルTVシステム	オリンパス	1
4	光源装置	オリンパス	1

III. 臨床検査病理関連機器

1-1)	パピロトミーナイフ KD-4Q	オリンパス	2
1-2)	パピロトミーナイフ KD-5Q	オリンパス	2
1-3)	パピロトミーナイフ KD-6Q	オリンパス	2
2	把持鉗子(ハードバスケット型)	オリンパス	5
3	碎石バスケット	オリンパス	1
4-1)	35mm医療用一眼レフカメラ	オリンパス	1
4-2)	同上用標準レンズ	オリンパス	1
4-3)	同上用フード	オリンパス	1
4-4)	フィルム	フジフィルム	1
5-1)	ドレナージチューブ Aセット(12Fr)	オリンパス	5
5-2)	ドレナージチューブ Aセット(10Fr)	オリンパス	5
6	三眼生物顕微鏡	オリンパス	1
7	液体窒素用フラスコ	池 本	2
8	自動細胞収集装置	サクラ	1
9	X線管球	東 芝	1
10	マイクローム替刃(凍結切片薄切用)	サクラ精機	12
11	マイクローム自動研磨機用砥石	〃	5

2-4. 延長フォローアップ協力期間（平成2年4月1日から同年12月31日まで）の技術協力

実行計画

1) 技術移転目標（ターゲット）

- ・ 大腸癌の早期診断
- ・ 胆嚢胆管結石の内視鏡的診断・治療

2) 協力期間

1990年4月1日から12月31日まで9ヶ月間

3) 日本側投入計画

① 専門家派遣

1990年7月及び12月に内視鏡学（2名）、放射線医学（1名）、消化器病理学（1名）から構成される短期専門家チームを2～3週間程度の期間をもって派遣し、2-4、1)の分野での診断・治療技術移転を実施する。

② 研修員受入れ

内視鏡分野で2名のカウンターパート研修員を1990年10月頃に受入れる。

③ 機材供与

上記の通り、延長フォローアップ協力期間中の協力分野については、大腸癌と胆嚢胆管疾患に焦点を置くことが適当と判断された。

「ウ」国の現状からみると、消化器病の診療にあたっては、内視鏡診断が基本と考えられ、内視鏡の分野の活動の維持・発展は必須であり、よって、延長フォローアップ協力期間中の機材供与は、内視鏡部門を中心とすることにした。

平成2年度供与予定機材を以下に示す。

(消化器内視鏡部門)

I. 内視鏡ビデオシステム関連

1. ビデオシステムセンター	1	台
2. ビデオイメージ上部消化管汎用内視鏡	2	台
3. ビデオイメージ大腸スコープ	1	台
4. 自動撮影装置	1	台式
5. 内視鏡ビデオシステム関連消耗品	1	式

II. 内視鏡機器

6. 上部消化管汎用スコープ	1	台
7. 十二指腸内視鏡（2チャンネル）	1	台
8. 十二指腸内視鏡	1	台
9. 大腸内視鏡	1	台
10. 高輝度光源装置スベアパーツ	1	式
11. 高周波焼灼電源装置	1	台
12. ヘモガルト	7	
13. N=Bドレナージチューブ	10	
14. ドレナージチューブ	20	
15. 食道拡張器	1	

(消化管病理部門)

16. 自動染色装置用スベアパーツ	1	式
-------------------	---	---

3. プロジェクト実施上の課題

3-1 フォローアップ調査専門家チームの対処方針

調査確認事項及び課題	現地における対応	フォローアップ調査専門家チーム対処方針
<p>1. 実施体制</p> <p>1-1 消化器病センターの設立 ウルグアイ国では、その死因別死亡率において、消化器系疾患の死亡率が著しく高く、ウルグアイ政府は既存のウルグアイ東方共和国大学医学部附属病院 "Hospital de Clínicas Dr. Manuel Quintela" に、内視鏡学を中心に、放射線医学、消化管病理学、臨床検査の各部門を統合した消化器病センターを設立し、消化器病診断・治療能力の向上、専門医の教育・養成を通じて、全国的な診療体制の改善を目指すこととなった。</p> <p>1-2 消化器病センターの組織 ウルグアイ東方共和国大学医学部附属病院管轄下に消化器病センター (La Clínica de Nutrición y Digestivo) が設置されており、同センターは消化器内視鏡部、消化管病理部、放射線診断部、臨床検査部より構成されている。</p> <p>1-3 予算措置 日本側の継続的な協力が実施されなければ、現在の状況に到達するであろう。 ウルグアイ国側の予算で現在の消化器病センターの活動の維持運営は困難で、これまでに蓄積された人材も次第に散逸すると危惧される。</p>	<p>(1) ウルグアイ側は本件協力に係る討議議事録 (R/D) 署名後、経済的に困難な状況に置かれていたにもかかわらず、右消化器病センターの設置に努力したことは、高く評価される。</p> <p>(2) 本プロジェクトに対する本病院外での官民の正確な評価は未だ行っていないが、本プロジェクトが開始されて以来、本病院内での早期胃癌検診の増加と併行して、民間部門での早期検診が増加傾向にある。</p> <p>(3) 病院内外から検査を依頼され、X線検査、内視鏡検査、超音波検査等高度医療機器を駆使し実施しており、右センターは同国の地域医療に欠かせない存在となっている。</p> <p>昭和63年11月時点で、89名の「ウ」側スタッフ・カウンスラーパートが本プロジェクトの効果的実施と技術移転に従事している。</p> <p>技術協力を実施するに際し、現地の医療の現状のみならず、同国の経済、社会的基盤も考慮して、必要なシステムを与える必要がある。 X線フィルムの自己調達の拡大、資料の保存と整理のための予算を確保する。</p>	<p>(1) 右センター設立後の消化器病診断・治療に関わる各部門の技術向上、即ち、日本側協力効果をセンター活動実績(外来・入院患者数及び各部門の検査数の年次毎の推移)及びウルグアイ側カウンスラーパートの診断・治療能力の水準に基づき、判定することとした。</p> <p>(2) 日本側協力の波及効果については、センターでの医学部学生への教育活動や大学卒業生に対する教育(消化器病コース、栄養学基礎コース、消化器内視鏡コース、臨床授業等)の現況を調査し、必要な指導、助言を行った。</p> <p>右センターの管理部門を含めた各部門のスタッフの配置状況、指揮命令系統の流れ、運営委員会(COORDINATING COMMITTEE)等の活動状況及び組織運営上の問題点を調査、把握するとともに、適切な指導、助言を行った。</p> <p>(1) 右センター並びに医学部附属病院の収支(1988~89)につきウルグアイ側より資料提出させ、大学以外の外部機関さらには、第3国からのセンター運営管理に係る資金援助確保等の有無についても、併せて聴取、確認した。</p> <p>(2) 医療機器の保守・維持管理及び消耗品購入の為の年間投入予算額について調査し、必要に応じ、増額等の所要措置につき申し入れを行い、かつ、医療機器に関する、現地代理店との保守契約の締結を促す為、機材の保守・維持管理の意義についても助言、指導した。</p> <p>(3) 今後(1990)の収支計画とその見込みにつき、聴取、確認した。</p>

調査確認事項及び課題	現地に於ける対応	フォローアップ調査専門家チーム対処方針
<p>1-4 施設整備 本件協力が係るR/D締結後、ウルグアイ側は独自予算で、消化器病センターの創設に伴う施設新設と拡充を実施した。</p> <p>消化器病センター開所：1984年(昭和59年)8月9日、ウルグアイ東方共和国大学医学部附属病院内に消化器病センターを新設し、必要資機材を調達し、さらに、供与機材通関・引取り手数料及び輸入税を負担した。</p> <p>1-5 カウンタースタッフ(C/P)配置 ① 消化器病センター所長(Dr. Lorenzo Peri)を始めとし、80名のウルグアイ側スタッフ・カウンタースタッフが配置されている。</p> <p>消化器内視鏡部：教授1(兼部長)、準教授2、助教3 他 消化管病理部：教授1(兼部長)、準教授5、助教9 他 放射線医学部：教授1(兼部長)、準教授3、助教4 他 臨床検査部：教授1(兼部長)、準教授5、助教9 他</p> <p>② 消化器病センターの教授を含め、スタッフへは1日につき4時間までの労働賃金が支払われていない。例えば、教授の月給は200ドル程度で、生活費のほとんどを年後のアルバイトで得ている。</p>	<p>右センターPeri所長(教授)はセンタースタッフ、特に、若い医師に対し、消化器病センターの今後の発展のためには日本側の知識、技術及び機材等ハードの援助だけで解決図れるものでなく、現地医師の意識改革とこれまでに以上の自助努力が必要であることを強調している。</p>	<p>(4) 1990年度ウルグアイ側予算措置を確認した上で、日本側協力計画の内容(協力分野、投入規模、投入時期等)を検討した。</p> <p>右センター各部門(消化器内視鏡、放射線診断、消化管病理、超音波診断、臨床検査)の施設整備状況を確認した。</p> <p>(1) 各部門別C/Pの配置状況(人数と質)を調査し、ウルグアイ側からC/Pリスト提出を求めた。</p> <p>(2) 上記部門別C/Pの勤務状況等につき、聴取し、改善を要すと判断される点では、適切な助言、指導を行った。</p>

調査確認事項及び課題	フォローアップ調査専門家チーム対処方針
<p>2. ウルグアイ東方共和国大学医学部附属病院消化器病センターの活動実績 消化器病診療活動（1988年1月～10月）</p> <p>(1) 入院実績 内視鏡病棟には33ベット（男女）があり上記期間中1501名が入院治療を受けた。</p> <p>(2) 外来患者 1. 日平均20名で、2,615名が治療を受けた。</p> <p>(3) 内視鏡検査 受診者は、従来1日平均15名であったが、内視鏡機器の整備に伴ない増加傾向にある。</p> <p>(4) 教育活動 （病型）88年1月～10月までの間、15回に及ぶ解剖、臨床討論 （臨床）診断と治療の難しい患者について20回に及ぶ臨床討論 （ポリクリニカ）月2回開催</p> <p>(5) 共同討議 消化器病センター又は他の部門で治療した患者について主として外科医、臨床内科医の参加を得て行なわれている。</p> <p>(6) 内視鏡討議 Peri教授主催により毎週1回、内視鏡、放射線、病理関係の医師参加により行なわれている。</p> <p>(7) 大学生への教育 医学概論課程（2ヶ月半）を受けている320名、病理、臨床病理(1)の600名、(2)の340名に対し、夫々消化器病教育を実施。</p> <p>(8) 大学卒業生に対する教育 消化器病コースの参加者は、左記の何れの教育活動にも参加し、専門医として資格取得に必要な3年間に入院患者、ポリクリニカ、内視鏡、栄養学、超音波診断の各コースで教育を受ける。</p> <p>(9) 大学卒業生に対する基礎教育 栄養学基礎コース：88年4月22日～5月7日、2回/週 消化器内視鏡コース：88年11月7日～9日まで実施</p> <p>(10) 臨床授業 卒業生は1年のうち週1回Senior講師が行う臨床授業を受ける。</p> <p>(11) 医学誌の購読</p> <p>(12) 日本側派遣専門家による講演 特別大学教育活動 ウルグアイ消化器学会 消化器ミーティングにおいて、消化器病センタースタッフが夫々会議の組織委員として参加。</p>	<p>1989年度の消化器病センターの活動実績（消化器病診断・治療件数及び教育活動）につき調査、確認した。</p> <p>右センターへの技術協力効果が、ウルグアイ国全土へ波及しているか否か、又、先方実施機関が本件協力事業を通じて修得された新技術・知識の普及に努めているか否か見極めるとともに、必要に応じこれに係る指導、助言を行うこととした。</p> <p>1990年以降のセンター活動方針について、先方の意向を聴取した。</p> <p>また、シンポジウム、セミナー開催計画、教材作成等に関し、必要な指導、助言を行い、併せてフォローアップ協力継続期間に派遣される専門家による講演テーマ、内容についても、先方の要望を聴取した。</p> <p>さら、近隣諸国で実施されている又は今後実施予定にある同種プロジェクトとの交流についても先方へ提言した。</p>

調査確認事項及び課題	現地における対応	フォローアップ調査専門家チーム対処方針
<p>3. フォローアップ協力期間の技術移転計画 (フォローアップ協力内容)</p> <p>7. 食道癌及び大腸癌の早期診断技術の移転</p> <p>4. 胆嚢胆管精石の内視鏡的診断・治療技術の移転</p> <p>3-1-1 食道疾患の内視鏡診断について 食道裂孔ヘルニア、食道炎、バレット食道、食道癌等の疾患の内視鏡診断の水準は決して高くない。 (課題)</p> <p>① 診断結果の記録が文章のみである場合が大部分で、写真や図による記録はほとんど行われていない。毎日熱心に行われる内視鏡検査の結果が画像として残らないため、積み重ねられたデータが無い。これは形態学の基本に欠けており、診断学の進歩が保証されていない事を示している。</p> <p>② 病変の診断に必要な生検組織診断の併用率が極めて低い。</p> <p>3-1-2 食道外科の現況について 人口300万人弱に対して毎年300人強の食道癌死亡があり、食道癌多発国である。 対象人口の少ない点からしても、早期診断が実施し易い条件にあるが、これまでは診断技術がなく、診察の対象となる食道癌患者の多くは、極めて進行した癌であり、外科治療すること自体が困難であった。 食道癌切除率は不明であるが、手術死亡率は30%以上で、極めて困難な状況にある。</p> <p>3-2 下部消化管内視鏡検査技術 one-man methodによる盲腸までの挿入法 ポリベクトミーの安全な方法 各疾患(癌、ポリープ、炎症性疾患等)の概念</p>	<p>1989年11月派遣の短期専門家により、病変のスケッチを綿密に行うよう指導。</p> <p>右原因は、(1)経済的理由により、十分な量の撮影用フィルムへの入手が困難、(2)内視鏡診断の教育システムが未発達、(3)医療用予算の不足である。</p> <p>右センターにて最近1年間の成果として、食道表存癌が3症例診断され、外科的に切除され、病理学的に検索出来た。 これはウルグアイ国始まって以来の快挙であり、本プロジェクトの大きな成果であると評価される。</p>	<p>1989年度フォローアップ協力実績を踏まえつつ、フォローアップ協力継続年度(1990年)の我が方投入スケジュール(専門家派遣、C/P研修員受入れ、機材供与)及び先方実施体制(特にプロジェクト運営管理に係る予算措置等)を提案の上、以下諸事項につき調査、確認を行い、日・ウルグアイ両国間の検討課題とした。</p> <p>(1) フォローアップ協力継続上の目標、ターゲットの設定</p> <p>(2) 左記フォローアップ協力分野における現在の技術・知識水準及び将来的課題</p> <p>(3) 左記協力分野における我が方の協力効果を測定し、目標達成度の判定。</p> <p>(4) 1989年度の日本側技術協力に対するウルグアイ側評価及び要望内容。</p>

調査確認事項及び課題 現地における対応 フォローアップ調査専門家チーム対処方針

4. 日本側投入実績
 ウルグアイ国消化器病センタープロジェクト
 平成元年年度実施計画（平成元年4月1日～平成2年3月31日）

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
専門医 カウナー 技術員	1名 1名 1名	1名 1名 1名	1名 1名 1名	1名 1名 1名	1名 1名 1名	1名 1名 1名	1名 1名 1名	1名 1名 1名	1名 1名 1名	1名 1名 1名	1名 1名 1名	1名 1名 1名	1名 1名 1名	1名 1名 1名	1名 1名 1名	1名 1名 1名	1名 1名 1名	1名 1名 1名	1名 1名 1名	1名 1名 1名	1名 1名 1名	1名 1名 1名	1名 1名 1名	1名 1名 1名
研修生	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名
研修期間	10/1/27	10/1/27	10/1/27	10/1/27	10/1/27	10/1/27	10/1/27	10/1/27	10/1/27	10/1/27	10/1/27	10/1/27	10/1/27	10/1/27	10/1/27	10/1/27	10/1/27	10/1/27	10/1/27	10/1/27	10/1/27	10/1/27	10/1/27	10/1/27
研修科目	消化器病	消化器病	消化器病	消化器病	消化器病	消化器病	消化器病	消化器病	消化器病	消化器病	消化器病	消化器病	消化器病	消化器病	消化器病	消化器病	消化器病	消化器病	消化器病	消化器病	消化器病	消化器病	消化器病	消化器病
研修機関	消化器病センター	消化器病センター	消化器病センター	消化器病センター	消化器病センター	消化器病センター	消化器病センター	消化器病センター	消化器病センター	消化器病センター	消化器病センター	消化器病センター	消化器病センター	消化器病センター	消化器病センター	消化器病センター	消化器病センター	消化器病センター	消化器病センター	消化器病センター	消化器病センター	消化器病センター	消化器病センター	消化器病センター
研修費用	100万円	100万円	100万円	100万円	100万円	100万円	100万円	100万円	100万円	100万円	100万円	100万円	100万円	100万円	100万円	100万円	100万円	100万円	100万円	100万円	100万円	100万円	100万円	100万円

右フォローアップ協力に係る日本側投入実績、協力効果及び補完的技術協力の必要性と妥当性を鑑察した上でフォローアップ協力継続の可能性を検討した。
 ウルグアイ国に於ける近年の消化器疾患の傾向や課題を分析し、日本側協力内容につき先方の要望を織り込むかたちで策定した。
 なお、フォローアップ協力の継続については先方側で必要な予算措置が図られることとカウナーパート(C/P)配置等が得られることを前提とした暫定実施計画であること及び変更があり得ることの条件付きで、以下の項目につき、ミニッツを締結した。
 (1) フォローアップ協力延長に係る技術協力上の目標とターゲット
 ① 大腸癌の早期診断能力の向上と治療技術の移転
 ② 胆嚢胆管結石の内視鏡的診断・治療技術の移転
 (2) 平成2年度専門家派遣計画
 短期専門家：専門分野
 及び派遣期間
 (3) 平成2年度C/P研修員受入計画
 C/P研修員受入：研修科目
 及び研修期間
 (氏名及び本邦研修希望機関)
 胆膵疾患の内視鏡的診断・治療技術 : 1名
 大腸癌の早期診断・治療技術 : 1名

調査 確認事項及び課題	現地における対応	フォローアップ調査専門家チーム対処方針
<p>4-1. 短期専門家の派遣</p> <p>(1) 5月派遣4名、教育講演について</p> <p>① 岩越一彦(内視鏡学)</p> <p>② 多田秀樹(内視鏡学)</p> <p>③ 浜田 勉(放射線診断学)</p> <p>④ 八巻 悟郎(放射線診断学)</p> <p>1. 早期食道癌の診断、2. 逆追蹤された食道癌例の症例呈示</p> <p>(2) 11月派遣4名、教育講演について</p> <p>① 吉田 操(内視鏡学)</p> <p>1. 食道癌存続の内視鏡診断、2. 胸部食道癌の外科治療、3. 食道の色葉内視鏡検査法、4. 食道癌根治手術、5. 食道癌存続の内視鏡診断と治療成績</p> <p>② 海上 雅光(病理学)</p> <p>③ 李 茂基(内視鏡学)</p> <p>1. 扁平上皮癌以外の食道悪性腫瘍、2. 食道癌の内眼分類、3. 食道疾患の生検診断</p> <p>④ 李 茂基(内視鏡学)</p> <p>1. 粘液性生腫瘍に対する腺管内視鏡、2. 早期胆管癌の画像診断、3. 内視鏡的胆道ドレナージEBBDとPTBDの併用法について、4. 胆道鏡を中心とする画像診断</p> <p>平成元年度主要供与機材</p> <p>I. 内視鏡ビデオシステム関連</p> <p>①ビデオシステムセンター、②TVモニター、③ビデオイメージ上部消化管汎用スコープ、④ビデオイメージ大腸スコープ、⑤ビデオイメージ十二指腸スコープ</p> <p>II. 内視鏡テレビ・ビデオセット</p> <p>①上部消化管ファイバースコープ、②十二指腸ファイバースコープ、③サクシヨンプンプ、④メデイカルTVシステム、⑤光源装置</p> <p>III. 臨床検査・病理関連機器</p> <p>①パピロトミナーナイフ、②把持鉗子、③砕石バスケット、④35mm医用一眼レフカメラ、⑤ドレナージチューブAセット、⑥三眼生物顕微鏡、⑦液体型医用フラスコ、⑧自動細胞収集装置、⑨X線管、⑩マイクロトーム替刃、⑪マイクロトーム自動研磨機用砥石</p>	<p>フォローアップ調査専門家チーム対処方針</p> <p>(4) 平成2年度機材供与計画</p> <p>プロジェクト活動の現況、既供与機材の利用・管理状況、機材供与に係る先方の要望を調査、確認し、供与妥当機材をリストアップした。</p> <p>なお、供与機材選定に際しては、来年度が協力最終年度になることも考慮し、右センターの機能を可能な限り長期にわたって維持するに必要とされる機材を優先させた。</p> <p>特に、プロジェクト開始当時(6年前)に供与した機材の稼働状況をチェックし、平成2年度機材供与では既供与機材のスペアパーツ、消耗品供給を行うこととした。(平成2年度供与機材金額はウルグアイ側には明示せず。)</p>	

調査確認事項及び課題	現地における対応	フォローアップ調査専門家チーム対処方針
<p>5. 既供与主要機材の利用・管理状況について</p> <p>5-1 近接式カセツテレックスX線テレビ装置 (東芝製 KXO-850/GCS) 昭和59年度「ウ」国製フィルムを本機仕様(インチサイズ適応: 10×12インチ)にカッティングして稼働させていたが、カッティングフィルム使用が原因でフィルム送り装置に故障が頻発した。</p> <p>5-2 リニア式電子走査形超音波診断装置</p> <p>5-3 X線フィルム自動現像機 現地では消耗部品の調達が困難であるため、本プロジェクト終了にあたり、将来永く本機を稼働させるに必須部品類を追加供与する必要がある。</p> <p>5-4 一般撮影用X線装置</p> <p>5-5 複合電子走査形超音波診断装置 4-2、4-5の2台の超音波診断装置により腹部、心臓、産婦人科その他部門で7,000件以上の診断を実施している。</p> <p>5-6 内視鏡機器 1987年の調査団派遣時には、C/Pの内視鏡取り扱いが不良で破損状態が著しい状況にあった。</p>	<p>昨年10月東芝ドブラジルより技師をプロジェクトに派遣し、MOTOR POTENCIOMETER 及び SELECTOR GUIDE を変換し、右機材を修理した。</p> <p>特に問題なし。</p> <p>特に問題なし。</p> <p>機器の修理には、現地において部品の入手が困難な状況にあり、そのため、1988年度にウルグアイ国で修理不可能な内視鏡とその光源機器についてののみ、本邦で修理・調整を実施した。 (内視鏡10本、内視鏡用光源装置2台)</p>	<p>(1) 既供与主要機材の利用及び維持管理状況を確認し、問題点等に対する対策を検討した。</p> <p>(2) 平成2年度機材供与計画に関して、ウルグアイ側要望につき概要を聴取した。</p>

調査課題事項及び課題	現地における対応	フォローアップ調査専門家チーム対処方針
<p>6 フォローアップ協力延長について</p> <p>6-1 協力目的 ア、食道癌及び大腸癌の早期診断技術、イ、胆膵胆管結石の内視鏡的診断・治療技術の移転を通じ、大きな成果を得てきている。</p> <p>6-2 協力分野 ウ、ウルクグアイ国での消化器疾患の現状を踏まえ、先方の要望及び我が方対応可能な分野に絞り協力を実施することとする。</p> <p>6-3 双方の責任 1) ウルクグアイ側 2) 日本側 専門家派遣 C/P研修員受入れ 機材供与</p> <p>6-4 フォローアップ協力延長ミニッツの締結について</p>	<p>本件協力開始以前は、消化器病の診断が未熟で外科治療上、多くの問題があった。</p> <p>本件協力事業を通じ、派遣専門家による技術指導、本邦でのC/P研修、診断用機器の導入の結果、診断能力は飛躍的な向上、進歩を遂げ、今日に於いては、診断結果を信頼出来、この上に立って外科治療を計画出来るようになった。</p> <p>本プロジェクトスタート以前には早期胃癌症例は発見されていなかったが、現在では早期胃癌診断率が向上傾向にあるとともに、食道表層癌の初の切除を近年に経験している。</p>	<p>消化器病センターを中心に、食道癌の多発地域に対する早期診断の試みがされており、我が方のプロジェクト方式技術協力の結果であると考えられる。</p> <p>又、フォローアップ協力目標である大腸癌、胆石症の早期診断についても、先方側は意欲的であり、さらなる技術協力により、上記疾患の診断・治療体制の確立が可能になると判断される。</p> <p>フォローアップ協力継続のテーマ</p> <p>① 大腸癌の早期診断 ② 胆膵胆管結石の内視鏡的診断・治療に係る移転技術の定着と発展</p> <p>(1) 運営管理費の確保 (2) C/Pスタッフの配置</p> <p>先方と協議し、分野、人数、派遣期間を決めた。可能な限り、長期滞在とすることとした。</p> <p>人選に当たり、対象分野の若いスタッフを研修員とする様、指導した。</p> <p>先方の要望につき調査し、「4. 既供与機材の利用・管理状況」を考慮して、本邦国内委員会にて最終的に決定することとした。</p> <p>日本側：フォローアップ調査専門家チームリーダー（大柴 三郎） ウルクグアイ側：東方共和国大医学部附属病院院長</p>

調査確認事項及び課題	現地における対応	フォローアップ調査専門家チーム対処方針
<p>6-5 本件協力終了後のセンターの運営体制について (入 手 資 料)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 共和国大学医学部附属病院及び消化器病センターの組織図 2. 消化器病センター部門別スタッフ名簿 3. 共和国大学医学部附属病院及び消化器病センターの1988、89年の収支報告 4. 1990年の予算書 5. 消化器病センター部門別診療実績 6. " 教育活動(普及事業を含め)実績と計画(1990年以降) 7. 邦国研修員の活動状況 8. 既供与機材の利用・管理状況報告 <p style="text-align: right;">以上</p>		<p>既供与機材の保守・維持管理体制並びに院内教育等について先方の計画を調査、確認した。</p>

3-2 プロジェクトの進捗状況

本件協力事業は、以下の目的を以って、昭和59（1984）年4月1日から5ヶ年にわたり、プロジェクト方式技術協力を実施した。

本件協力事業の所期の目的は、下記の通りである。

- 1) 消化器病診断技術の向上を図る。
- 2) 専門医の教育と養成を助長する。
- 3) 全国的診療体制の充実を図る。

5ヶ年の当初協力期間における我が方の投入実績は、

- ・ 専門家派遣：長期1名、短期25名
- ・ 研修員受入れ：16名
- ・ 機材供与：251,000千円 である。

なお、昭和63（1988）年11月5日から11月12日までの期間、本件プロジェクトの評価調査団を現地に派遣した。

その結果、ウルグアイ国において、近年下記疾患が急増傾向にあることを鑑み、その診断・治療面の技術協力、即ちフォローアップ協力を平成元年4月1日から1年間にわたり実施した。

- ・ 食道癌及び大腸癌の早期診断
- ・ 胆嚢胆管結石の内視鏡的診断・治療

1ヶ年間のフォローアップ協力期間における我が方の投入実績は、

- ・ 専門家派遣：長期1名、短期8名
- ・ 研修員受入れ：3名
- ・ 機材供与：22,189千円

昭和63年11月の評価調査時ジョイントエバリュエーションレポートによると、先方実施機関側（共和国大学医学部附属病院）は、2年間のフォローアップ協力を我が方に強く要請越した経緯があり、今般、平成2（1990）年3月2日から3月11日までフォローアップ協力評価専門家チームを現地に派遣し、プロジェクトの現況調査及び先方実施機関関係者との合同協議・評価を通じ、フォローアップ協力効果の測定、フォローアップ協力目標達成度の把握、確認等を行なうとともに、補完的技術協力の必要性と妥当性を調査した。

その結果、下記分野にて継続協力が必要であるとの結論に達し、平成2年4月1日から9ヶ月間の延長フォローアップ協力計画の策定を行なった。

- ・ 大腸癌の早期診断
- ・ 胆嚢胆管結石の内視鏡的診断・治療

我が方協力計画を下記すると、

- ・ 短期専門家チームの派遣（年2回：7月と12月、編成：内視鏡学2名（胆嚢胆管結石の内視鏡的診断・治療）、放射線医学1名、消化管病理学1名）

- ・ 研修員受入れ2名(研修科目:内視鏡学)
- ・ 機材供与(本消化器病センター、特に、消化器内視鏡科の機能を活性化、維持させる目的で、既供与機材のスペアパーツ及び補完的機材を中心として供与する。)

3-3 課題と対策

1) 日本側専門家の派遣期間について

一般的に、カウンターパート研修員受入れに比べ、現地に於いて数多くの医師が研修できるという点で好評を得ている。

特に、派遣専門家による実技指導には極めて高い評価がなされている。

唯、専門家の滞在期間が短いことがあり、この点は今回も指摘され、最小限、3週間滞在して技術指導して欲しいとの要請がウルグアイ側より出された。

この件に関しては、我が方として可能な限り現地滞在を長くするよう派遣専門家へ働きかけていく旨回答した。

3-4 供与資機材の利用・管理状況

1) 放射線診断部門

7. 近接式カセットレスX線テレビ装置(昭和59年度供与機材、東芝メディカル製KXO-850/GCS)

標記遠隔操作X線検査装置は、インチサイズフィルム(10×12インチ)適応仕様で、ウルグアイ製フィルム(センチサイズ)は、本機フィルムマガジンに使用不可である。

過去、ウルグアイ側は、「ウ」国製フィルムを本機仕様に合わせカuttingして稼働を試みてきたが、カuttingフィルム使用が原因でフィルム送り装置に故障が頻発した。

昨年10月、東芝ドブラジルより本機調整の目的で技師を派遣し、MOTOR POTENCIOMETER 及び SELECTOR GUIDE を交換し、修理を完了、現在は本機仕様フィルムが供給されれば正常に稼働する状態にある。

なお、東芝側はフィルムの比較テストを含めて詳細な検査報告書を作成・提出しているが、品質の観点からウルグアイ製フィルムの使用及びセンチサイズフィルムに合わせてマガジンやその他装置の改変することは不可能と報告している。

また、ウルグアイ側は財政的理由から輸入フィルム調達に難色を示しているが、我が方としては、フィルムの価格見積り、購入価格交渉を含め、可能な限り早期に輸入フィルム自己調達体制を築くよう助言、指導した。

4. 一般撮影用X線装置

良好に整備・点検されており、正常に稼働している。

9. X線フィルム自動現像機

良好に整備・点検されており、正常に稼働している。

但し、現地では消耗部品の調達については、本件協力終了にあたり、将来永い稼働を保証させるに必要な消耗部品類についてのルート開拓の努力が必要である。

2) 消化管病理・中央検査部門

病理、中央検査室への供与機材は、それぞれの科で十分に利用されている。消耗品の補充について、供給ルート確立が望まれる。

3) 超音波診断部門

7. リニア式電子走査形超音波診断装置

良好に整備・点検されており、正常に稼働している。

4. 複合電子走査形超音波診断装置

良好に整備・点検されており、正常に稼働している。

4) 消化器内視鏡部門

Dr. Horacio Gutierrez が本センター消化器内視鏡科の助教授として着任して以来、内視鏡機器の故障はほとんど発生しておらず、全体的に非常に丁寧に扱われている。

a) 1987年度分までに供与された内視鏡機器（上部消化管、十二指腸及び下部消化管）は12本であるが、一部は修理済みでもあり、何れも現在使用可能である。

これに1988年度分7本、1990年度分は5本、計12本供与している。

1988年度分：上部用 3本
 十二指腸用 1本
 下部用 3本

1990年度分：電子内視鏡 3本
 上部用 1本
 十二指腸用 1本

b) 内視鏡付属品は現在差し当たり、特に緊急を要する程の不足状態ではない。

c) 内視鏡機器の保守点検状態は、過去に見られたような取り扱い上の不備はなく、良く管理されている。ただし、一部の機器にはファイバーの折れも強く、近い将来耐用年数に達するものと予想されるものも見られた。

d) 将来に対する対応

内視鏡機器は本体、付属品ともに何れも消耗品に属し、かつ、現地修理は部品の入手が困難であること、次ぎのアフタケアまでの期間を考えると、多少の補給、供与が必要である。特に、電子スコープは故障の少ないこと、多人数で観察されることから、教育、診断、治療の面から最適と考えられる。

付属品についても同様と判断される。

4. フォローアップ協力の評価

4-1 フォローアップ協力当初計画と実績との比較

内 容	フォローアップ協力(平成元年度)									
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1990
I. フォローアップ協力目標										
-1. 消化器内視鏡、消化管病理学、放射線医学及び臨床検査部門において										
① 食道癌の早期診断										
② 大腸癌の早期診断										
-2. 胆嚢胆管結石の内視鏡的診断・治療										
II. 研修員受入れ(計画)										
-1. 消化器内視鏡学(準高級)	1 M									
-2. 消化器内視鏡学										
-3. 超音波診断学										
(実 績)										
研修科目										
氏 名										
										超音波診断学 I M Dr. Alberto Carbo
III. 専門家派遣(計画)										
-1. 消化器内視鏡学		2 W								
-2. 消化管病理学		2 W								
-3. 放射線医学		2 W								
-4. 臨床検査		2 W								
(実 績)										
指導科目(氏名)										
										内視鏡学 (岩越 一彦) — 2 W 内視鏡学 (多田 秀樹) — 2 W 放射線医学 (浜田 勉) — 2 W 放射線医学 (八巻 悟郎) — 2 W
IV. 調査団、専門家チーム派遣(実績)										
										フォローアップ協力評価 3/2~3/10 (大柴、望月、丸山、金子)
V. 機材供与(実績)										
主要機材名										ビデオシステムセンター、ビデオイメージ上部消化管汎用、大腸、十二指腸各種スコープ 内視鏡テレビ・ビデオセット(メディカルTVシステム)、上部消化管、十二指腸各種スコープ 三眼生物顕微鏡 自動細胞収集装置
金額(千円)										22,180千円

4-2 評価の総括

今般の専門家チームによる本件プロジェクトフォローアップ協力評価については、日本側大柴三郎チームリーダーと共和国大学医学部附属病院 Dr. Hugo Villar 院長との間で、ジョイントエバリュエーションレポートの署名・交換を行った。

評価の内容については、本件プロジェクトフォローアップ協力の進捗は、概ね、所期の計画に沿って実施され、現時点では協力の最終段階にあることを双方が確認した。

なお、フォローアップ協力目標である1)食道癌・大腸癌の早期診断、2)胆嚢胆管結石の内視鏡的診断・治療技術移転は、専門家派遣、カウンターパート研修員受入れ及び機材供与を通じ、順調かつ効果的に実施され、先方カウンターパートの技術・知識水準は飛躍的な向上を遂げるに至っている。

また、中・長期的展望に立って考えると、フォローアップ協力成果は食道癌・大腸癌及び胆石症の早期診断体制の構築と治療技術の発展を助長し、同時に、同国の保健医療事情の改善と国民の健康保持・増進に貢献するものと確信する。

4-3 取るべき措置

当初計画された1年間のフォローアップ協力期間終了後の取るべき措置については、今回の評価結果（フォローアップ協力期間中の専門家派遣・研修員受入れ・機材供与実績、技術移転状況、協力効果測定等）並びに先方共和国大学医学部附属病院側の要望を踏まえ、1)大腸癌の早期診断、2)胆嚢胆管結石の内視鏡的診断・治療技術の一層の向上を図る目的で、新たにフォローアップ協力期間を9ヶ月間設け、移転技術の定着と発展及びより高度な治療内視鏡技術の導入を中心に技術協力を継続することが望ましいと判断し、延長フォローアップ協力に係る協議議事録（ミニッツ）に取り纏め、それぞれの政府に進言することとした。

4-4 結論

本件消化器病センタープロジェクトは、ウルグアイ側実施機関の真摯な取り組み姿勢が窺われ、我が方の投入実績と先方の自助努力及び技術移転の状況から判断し、本センターに於ける消化器病診断・治療能力は着実に向上しつつあり、所期のフォローアップ協力計画に沿って順調に実施されている。

ウルグアイ国において、近年、食道癌、大腸癌及び胆嚢胆管結石が急増傾向にあることを鑑み、その診断・治療技術面の協力を平成元年4月1日から一年間のフォローアップ協力のターゲットとして実施してきた。

フォローアップ協力期間中の対象疾患を上記三疾患に絞ったことで、今般のフォローアップ協力評価はより具体的、詳細に行うことができた。

また、消化器病センターの診療活動は、停滞することなく、継続的に展開されており、我が方

機材供与の結果、各部門の検査件数の増加、量質共に飛躍的な向上がみられ、過去6年間の協力の成果がやっと実ってきたという感がある。

一方、中央検査・病理検査機器を始め、放射線診断装置、超音波診断装置、内視鏡機器等いずれもある意味では消耗品であることから、先方の自立体制構築への努力が強く望まれる。

例えば、フォローアップ協力供与機材（平成元年度）として電子内視鏡を供与したが、本スコープも約2,000件の検査、年数にすれば3～4年が性能を保つ限界とされている。

したがって、延長フォローアップ協力では、大腸癌の早期診断及び胆嚢胆管結石の内視鏡的診断・治療面での技術移転をテーマに平成2年4月1日から9ヶ月間の協力を実施することとなったが、技術面の向上のみならず、消化器病センター運営管理面においてもしっかりした自立体制を確立するよう期待される所である。

5. 教訓及び提言等

5-1 計画策定に関するもの

本プロジェクトは、消化器病センタープロジェクトとして発足したが、現実には、その消化器病には直接関係しない科（特に、病理、中央検査室）をも包含することになったが、これまでの成り行きを冷静に評価してみると、消化器病関連施設のみを対象したのでは、間接的に消化器関連部門と連携する部門の協力を得ることができず、その結果は現状よりもかなり後退したものになったのではないかと判断される。消化器科・放射線科と他科とのバランスを機材供与、カウンターパートの受入れなどの点で調節してきたこれまでのやり方は、極めて現実的であり、少なくとも関係者の人間関係をあまり損なうことがなかったという点で積極的に評価すべきであると思われる。

5-2 実施及び実施管理に関するもの

プロジェクト開始時から現在まで、日本の各施設において研修を受けたウルグアイ側カウンターパート（19名）のうち、現在、大学の内科（消化器）に在籍しているのは、教授（DR. PERI）と助教授（DR. GUTIERREZ）の二人のみである。他の医師は大学に籍がないため他施設で働いている。これらの医師達の何人かは、大学における内視鏡検査担当医として週に1～2回、無報酬で働いている。

このような現状は、大学に一定の籍しかないことを考慮すれば、不可避的なものである。しかし、見方を換えれば、日本で研修した技術を大学の外に広めることができるという点では、むしろ望ましいことだと解釈すべきであろう。事実、彼らもそのような認識をしているようであった。

他の科（放射線科、病理、中央検査室）の動向については詳しい調査をしなかったが、その現状は、消化器科とほぼ同様なものではないかと推察される。

5-3 延長フォローアップ協力に関するもの

所期の一年間のフォローアップ協力の終了に伴ない、さらに1990年末まで協力期間を9ヶ月間延長することについて、先方実施機関関係者（医学部附属病院Dr. Hugo Villar院長、消化器病センターDr. Lorenzo Peri所長他の医師団）と合同協議を行った結果、2. 要約で示した通り、1)大腸癌の早期診断、2)胆嚢胆管結石の内視鏡的診断・治療能力の向上を図る目的で、1990年4月1日から12月31日までの9ヶ月間の延長フォローアップ協力期間を設定し、補完的技術協力を行うこととなった。

当初フォローアップ協力は、前述した如く、実り多い協力であったが、この協力が本年限りの1990年12月31日で終了してしまうことは画竜点睛の感があるようにも思えた。延長フォローアップ

ブ協力については本件プロジェクトの協力最終年度ということで、短期専門家チームの派遣2回、研修員の受入れ2名、機材供与により消化器内視鏡部門の整備・充実を行うことで、先方の合意を得た。

6. 合同委員会の協議事項

6-1 経緯と概要

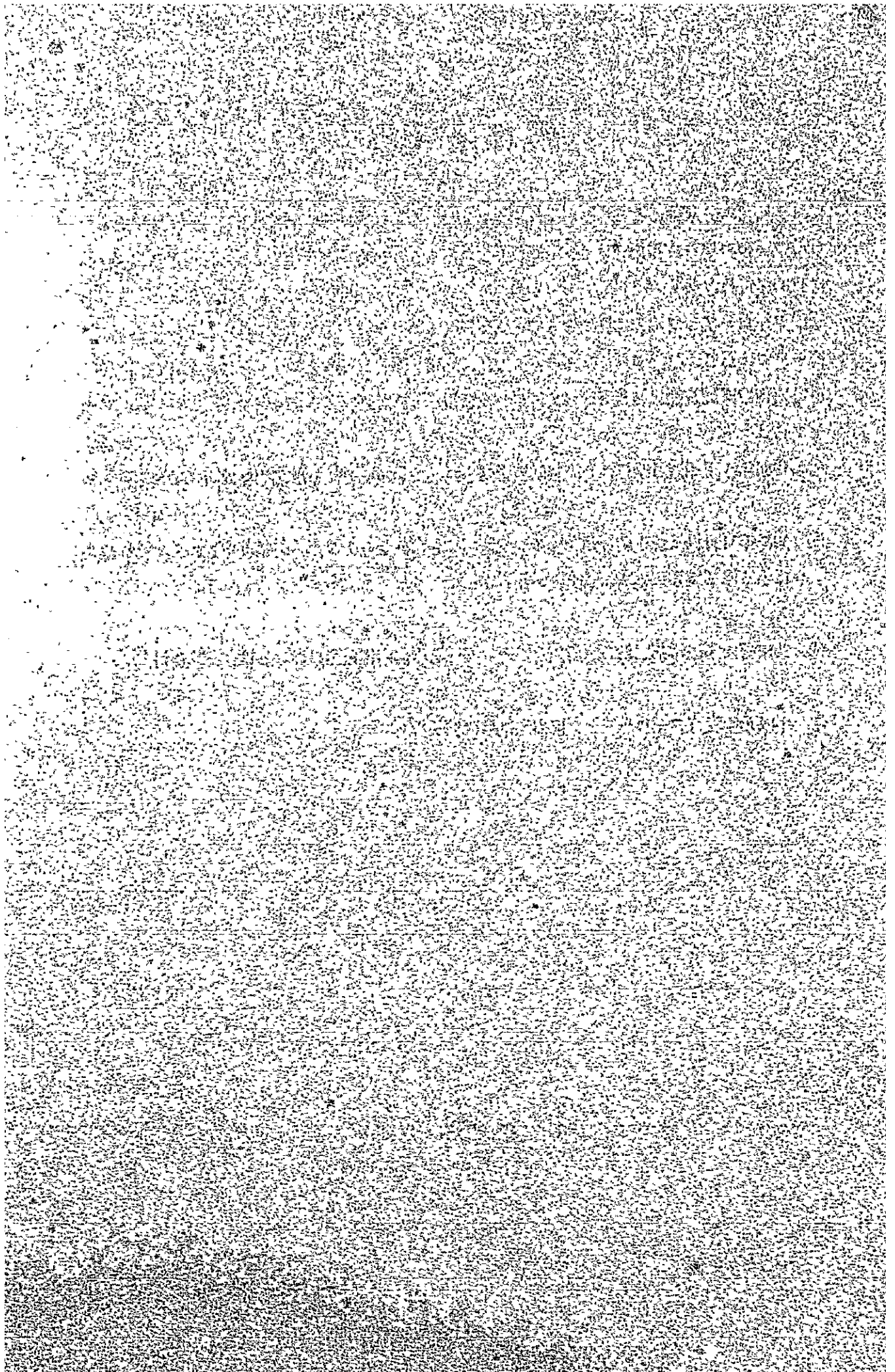
本専門家チーム派遣に先立ち、合同委員会の協議結果としてジョイントエバリュエーションレポート及びフォローアップ協力延長に係る協議議事録（ミニッツ）に盛り込むべき内容について、専門家による派遣前打合せ等を通じ十分に検討し、前表3-1フォローアップ協力調査専門家チームの対処方針にとりまとめた。

本合同委員会は、平成2年3月7日午前9時より共和国大学医学部附属病院消化器センター会議室において友好裡に行われ、同日我が方大柴三郎チームリーダー、先方Dr. Hugo Villar院長との間で、双方にて作成したフォローアップ協力ジョイントエバリュエーションレポート及びフォローアップ協力延長に係る協議議事録（ミニッツ）に署名を了した。（ジョイントエバリュエーションレポート及びミニッツの概要については第2章要約を参照）

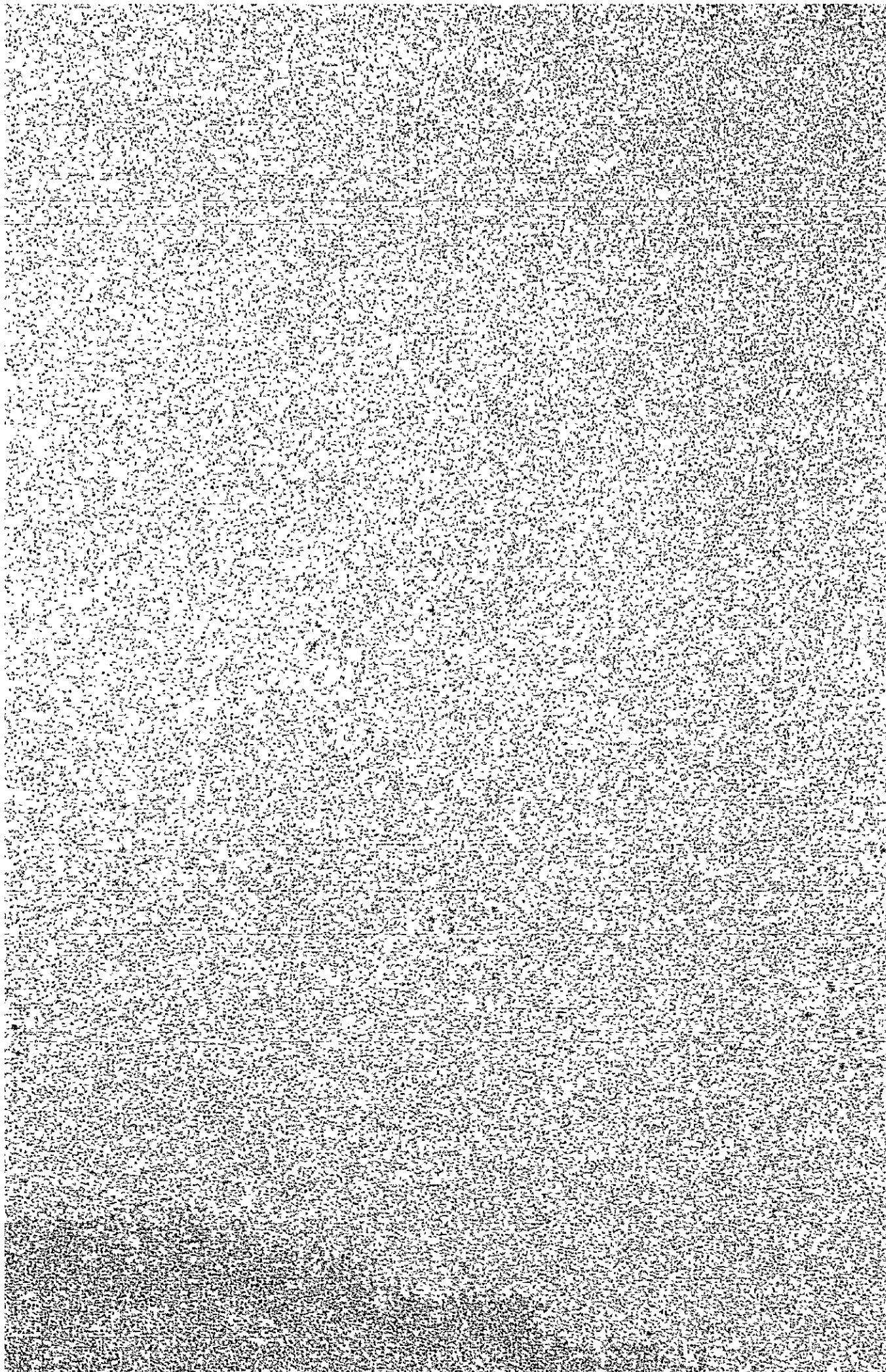
なお、本合同委員会の席上、大柴団長及びDr. Lorenzo Peri所長より、本プロジェクトフォローアップ協力の進捗状況並びに延長フォローアップ協力期間の活動計画等につき説明がなされた。

附 属 資 料

- ① フォローアップ協力ジョイントエバリュエーションレポート
- ② フォローアップ協力延長に係る協議議事録（ミニッツ）
- ③ 実施協議調査団討議議事録（R/D）及び暫定実施計画（T S I）
- ④ 1986年4月派遣計画打合せ調査団協議議事録（ミニッツ）及び暫定実施計画（T S I）
- ⑤ 1988年11月派遣評価調査団ジョイントエバリュエーションレポート及びフォローアップ協力に係る協議議事録（ミニッツ）
- ⑥ 共和国大学医学部附属病院消化器病センター消化器内視鏡科における検査統計資料
- ⑦ 平成元年度（フォローアップ協力）供与機材リスト



① フォローアップ協働ジョイントエバリュエーションレポート



JOINT EVALUATION REPORT

ON

THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR
THE PROJECT ON GASTROENTEROLOGY

IN

THE ORIENTAL REPUBLIC OF URUGUAY

March, 1990

Montevideo

Uruguay

MUTUALLY ATTESTED AND SUBMITTED

TO ALL CONCERNED.

Montevideo, Uruguay

March 7, 1990



Prof. Dr. Saburo Ohshiba

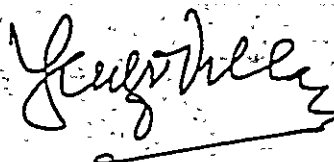
Leader,

Evaluation Survey Team,

Japan International

Cooperation Agency.

Japan



Prof. Dr. Hugo Villar

Director,

Hospital de Clinicas,

Uruguay

Discussion meeting between the Evaluation Survey Team of Japan International Cooperation Agency (JICA) and the Hospital de Clinicas "Dr. Manuel Quintela" on the evaluation of Follow-up Technical Cooperation for the Project on Gastroenterology.

Date : March 4 - March 7, 1990

Place: Hospital de Clinicas "Dr. Manuel Quintela"
Avenida Italia s/n - Montevideo, Uruguay.

Attendance:

JAPANESE PANEL

EVALUATION SURVEY TEAM

Prof. Dr. Saburo Ohshiba	Leader
Dr. Fukuji Hochizuki	Member
Dr. Masakazu Maruyama	Member
Mr. Kenji Kaneko	Member

EMBASSY OF JAPAN

Mr. Takehiko Imazu	Official
--------------------	----------

URUGUAYAN PANEL

Prof. Dr. Hugo Villar Director of Hospital de Clínicas

Dr. Lorezno Peri Professor Director of the Department of Gastroenterology and Head of the Gastroenterological Project.

Dr. Nelson Reissenweber Professor Director of the Department of Pathology.

Dr. Lucas Acosta Professor Director of the Clinical Laboratory.

Dr. Horacio Gutierrez Galiana Assistant to Professor, Head of Endoscopy Unit.

Dra. Elena Fosman Associate Professor of Gastroenterology Department.

Dr. Elbio Zeballos Associate Professor of Gastroenterology Department.

Dr. Eduardo Curuchet Director of the Radiologic Department.

I. INTRODUCTION

The Evaluation Survey Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Prof. Dr. Saburo Ohshiba visited the Oriental Republic of Uruguay from March 3rd to March 8th, 1990 in order to jointly evaluate with the Uruguayan authorities concerned the past achievements and future prospects of the Japanese Technical Cooperation for the Project on Gastroenterology (hereinafter referred to as "the Project").

During its stay in the Oriental Republic of Uruguay, the Team discussed and studied together with the Uruguayan counterpart personnel concerned on a number of aspects regarding the progress, performance of commitments and achievements of the Project.

Through careful studies and discussions, both sides summarized their findings and observations as described in the following chapters.

II. ORIGINAL MASTER PLAN OF THE PROJECT

In accordance with the Record of Discussions signed on January 12, 1984, for the purpose of cooperating with the Gastroenterology Center of the Hospital de Clinicas "Dr. Manuel Quintela", Faculty of Medicine, University of the Republic, as a five-year Project, and strengthening the diagnosis abilities in gastroenterology by integrating endoscopy, radiology, pathology and clinical laboratory.

In order to attain the above-mentioned objectives, the following activities were to be carried out through dispatch of Japanese experts, acceptance of Uruguayan counterpart personnel for technical training in Japan and provision of equipment.

(a) To improve the diagnosis in gastroenterology in the Hospital de Clinicas by upgrading the knowledge and techniques of its staff in endoscopy, radiology, pathology and clinical laboratory.

(b) To train and educate specialist in gastroenterology.

(c) To carry out research and study in gastroenterology.

III. IMPLEMENTATION OF THE FOLLOW-UP PROGRAMME

1. Counterpart training in Japan

(1) Gastrointestinal Endoscopic field

Dr. Lorenzo Peri was accepted for training on endoscopic diagnostic and therapeutic techniques in Osaka Medical College, Osaka and Sendai Open Hospital, Miyagi for four weeks in June, 1989.

Dr. Horacio Gutierrez was accepted for training on endoscopic diagnostic and therapeutic techniques in Osaka Medical College, Osaka and Sendai Open Hospital, Miyagi for four weeks in June, 1989.

(2) Ultrasonic diagnostic field

Dr. Alberto Carbo has been accepted for training on ultrasonic diagnostic techniques in Juntendo University School of Medicine, Tokyo for three months since January, 1990.

2: Japanese Expert

(1) Gastrointestinal endoscopic field

Dr. Kazuhiko Iwakoshi was dispatched to the Project for two weeks from May, 1989.

Dr. Hideki Tada was dispatched to the Project for two weeks from May, 1989.

Dr. Misao Yoshida was dispatched to the Project for two weeks from November, 1989.

Dr. Shigeki Lee was dispatched to the Project for two weeks from November, 1989.

(2) Radiological field

Dr. Tsutomu Hamada was dispatched to the Project for two weeks from May, 1989.

Dr. Goro Yamaki was dispatched to the Project for two weeks from May, 1989.

(3) Pathological field

Dr. Masamitsu Unakani was dispatched to the Project for two weeks from November, 1989.

Dr. Osamu Tsuruta was dispatched to the Project for two weeks from November, 1989.

3. Provision of Machinery and Equipment

Machinery, equipment and materials (hereinafter referred to as "the Equipment") necessary for the implementation of the Follow-up Programme has been provided.

The following is the list of main parts of the Equipment:

Japanese Fiscal Year 1989

- CV-1 Video System Center Standard Set
- VO-7630 Sony U-Matic Videocassette Recorder
- FVM-1442QH Sony TV Monitor
- GIF TYPE VX10 Videoimage Gastrointestinal Scope Standard Set.
- CF TYPE V10L Videoimage Colonoscope Standard Set
- TJF TYPE V10 Videoimage Duodenoscope Standard Set
- CIF TYPE XQ20 OES Gastrointestinal Fiberscope Standard Set
- OTV-F2 Medical TV Sytem Standard Set
- CLV-10 OES Xenon Light Source
- Spare Parts for Diagnostic X-Ray Equipment X-Ray Tube.

IV: METHODS OF EVALUATION.

1. Materials used as reference

In order to evaluate the past performance and achievements both quantitatively and qualitatively, the following materials are used as basis of reference:

- (1) The Record of Discussions
- (2) The Tentative Schedule of Implementation.
- (3) The Official requests made by the Government of the Oriental Republic of Uruguay with respect to dispatch of Japanese experts, Uruguayan counterpart personnel training in Japan and provision of equipment by means of Technical Cooperation Forms A-1, A-2, A-3 and A-4 respectively.
- (4) The Minutes of Discussions agreed in the course of the implementation of the Project.
- (5) Follow-Up Programme and Tentative Plan of Implementation for Follow-Up Programme.

2. Discussion and Observation

The Team discussed various aspects of the Project and observed the buildings, machinery, equipment, facilities and utilities made available for the Project.

To recognize the impact and efficiency of the training, discussions were held with counterpart trained in Japan.

V. RESULT OF EVALUATION

1. EARLY DETECTION OF ESOPHAGIC CANCER

Endoscopic studies (with staining procedures) have been performed in a high risk group of patients (appr. 1315 patients). Three cases of superficial esophagic cancer have been detected. The radiologic study was performed after the endoscopic diagnosis and radiological images confirming the endoscopic diagnosis have been obtained. The pathological study of the biopsies confirmed the neoplastic nature of the disease. Two patients have been submitted to Surgery and the pathological study (adaptation of the Japanese Schedule for study of superficial and advanced esophagic cancer) demonstrate in both a superficial cancer (one m and the other sm). These two cases were the first detected in the Hospital de Clinicas in the last ten years.

2. EARLY DETECTION OF COLORECTAL CANCER

940 patients have been studied by colo-rectal endoscopic procedures looking for neoplastic lesions. A protocol of follow up evaluation for colo-rectal cancer have been designed but actual data are still scarce for complete evaluation. Double contrast radiological techniques allowed the detection of three cases of early colonic cancer in polypoid lesions. The pathological study confirmed the diagnosis. Even with the Japanese schedule for colo-rectal cancer no case of "de novo" (flat neoplastic lesion) colo-rectal cancer have been detected.

3. ENDOSCOPIC MANAGEMENT OF BILIARY LITHIASIS

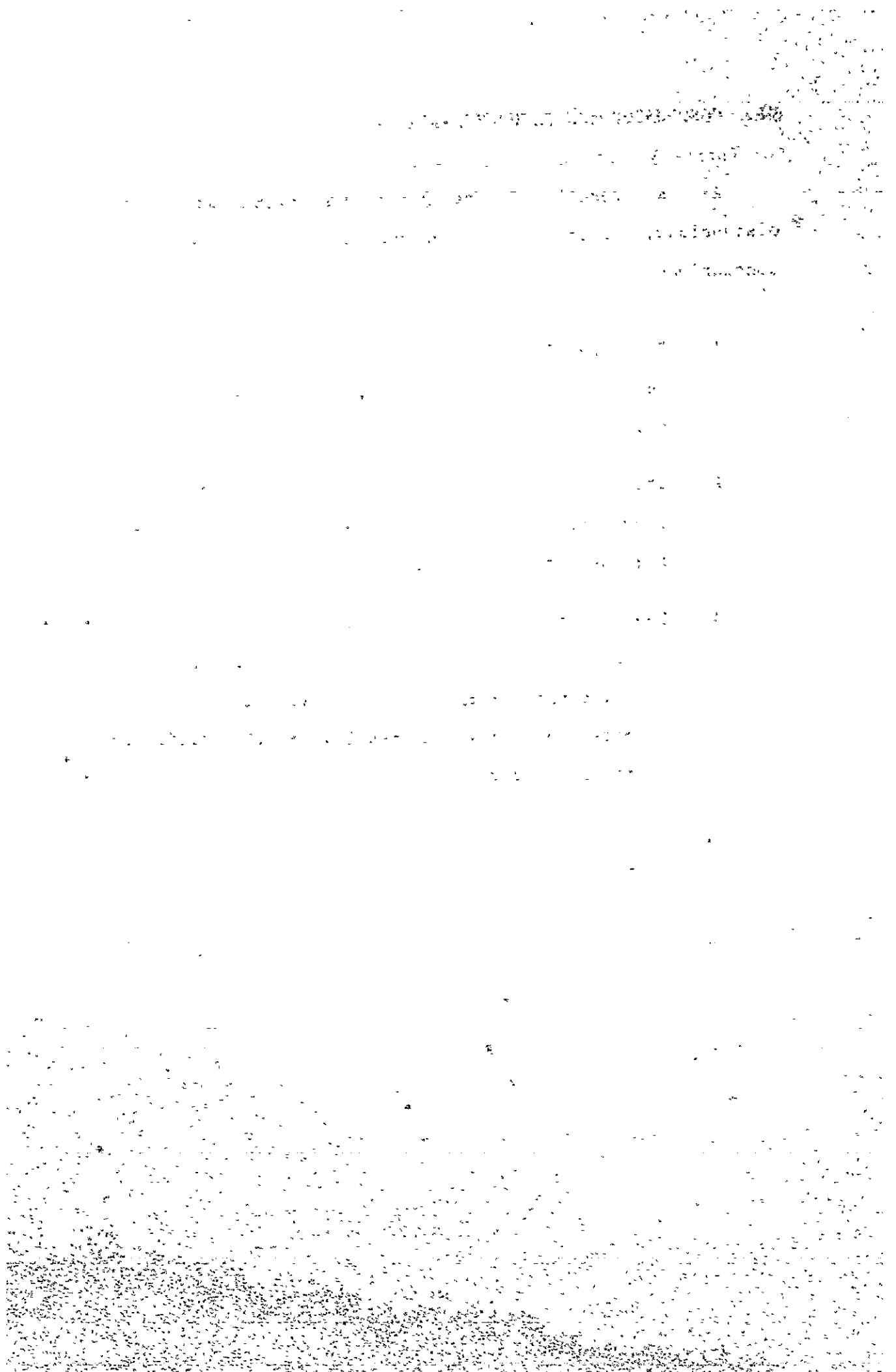
594 patients have been studied (ERCP). Diagnosis of lithiasis of the biliary tract (CBDS) was performed in 190 patients (32%) EST was performed in 44 cases and the extraction of the stones was successful in 67.6% of cases. In 1989 were performed the first five studies of patients with endoscopic biliary drainage (EBD). All these cases have been studied in a joint way with the Radiological Department. 18 patients with cancer of the biliary tract were studied with Percutaneous Transparietohepatic Cholangiography (PTC) with or without drainage. Two cases resulted from benign pathology (one hydatid cyst and the other

lithiasis). A randomized comparative study has been designed for evaluation of the diagnostic potential of U.S., T.C., ERCP and PTC.

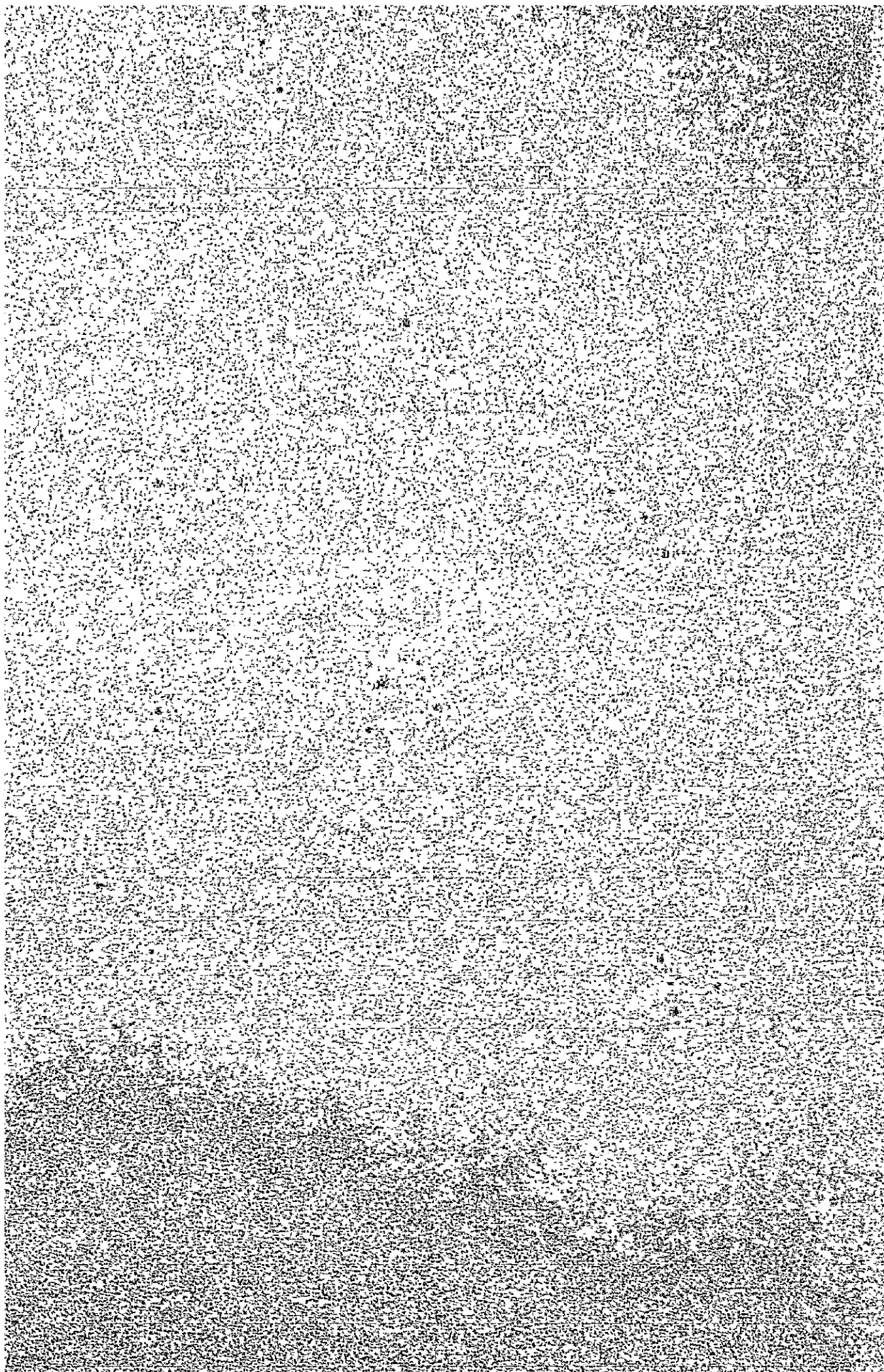
VI. CONCLUSION AND RECOMMENDATION

As a result of the joint evaluation work and discussions, both sides agreed upon the following conclusions:

1. In general, the Project has been implemented successfully and is coming to the stage of its target.
2. The necessity of the extension of follow-up Technical cooperation by the Japanese Government for the period of 9 months.
3. The necessity to continue the development in:
 - a) Early Detection of Colo-Rectal Cancer and,
 - b) Endoscopic Management of biliary lithiasis, in order to improve the results and the diffusion in both areas.



② フォローアップ協力延長に係る協議議事録（ミニッツ）



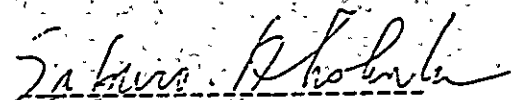
THE MINUTES OF MEETING
BETWEEN THE EVALUATION SURVEY TEAM
AND
THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF
THE ORIENTAL REPUBLIC OF URUGUAY
ON
THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR THE PROJECT ON GASTROENTEROLOGY

The Evaluation Survey Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Prof. Dr. Saburo Ohshiba visited the Oriental Republic of Uruguay from March 3rd to March 8th, 1990.

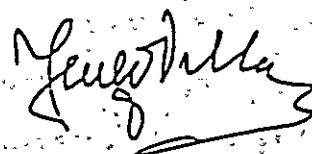
During its stay in the Oriental Republic of Uruguay, the Team carried out a joint evaluation, exchanged views and had a series of discussions with the Uruguayan authorities concerned on the extension of ongoing follow-up technical cooperation for the Project on Gastroenterology (hereinafter referred to as "the Project") signed at Montevideo, Uruguay on November 8, 1988.

As a result of the joint evaluating work and discussions, both sides agreed to recommend to their respective Governments that the period of the above mentioned technical cooperation should be extended for nine months from April 1, 1990 to December 31, 1990 with the matters referred to in the document attached hereto.

Montevideo, March 7th, 1990



Prof. Dr. Saburo Ohshiba
Leader,
Evaluation Survey Team,
Japan International
Cooperation Agency,
Japan.



Prof. Dr. Hugo Villar
Director,
Hospital de Clínicas,
Uruguay

THE ATTACHED DOCUMENT

1. The major subject for the technical cooperation during the extension of the period of follow-up cooperation is as follows:

Technology transfer of the items (1), (2), (3), and (4) in the Master Plan outlined in the Record of Discussions signed on January 12, 1984.

2. Responsibilities to be assumed by both sides are as follows:

Uruguayan side

- (1) Securing the budgetary allocation of the Project in accordance with the R/D.
- (2) Appropriate provision of Uruguayan counterpart personnel of the Project in accordance with the implementation of the Project.

Japanese side

- (1) Dispatch of Japanese experts to the Project
Short-term experts in the fields of Endoscopy, Radiology and Pathology.
- (2) Provision of the supplementary equipment
- (3) Training of Uruguayan counterpart personnel in Japan in the fields of Endoscopy.

S.O

[Handwritten signature]

3. The Follow-Up Programme and the Tentative Schedule of Implementation are shown in the ANNEX A and B.

4. Measures to be taken by both sides on the above cooperation will be treated in the same manner prescribed in the articles of the Record of Discussions signed on January 12, 1984.

S. O.
Y. M. L.

Jimenez

S.O.

ANNEX II FOLLOW-UP PROGRAMME

MONTH	1990											
	4	5	6	7	0	9	10	11	12			
SCOPE OF WORK												
I - TARGET	I. Early Detection of Colon-rectal Cancer in the field of Gastroenterology, Pathology, Radiology and Clinical laboratory. II. Endoscopic management of biliary lithiasis											
2. ACTIVITY	1) Dispatch of Japanese experts 2) Training of Uruguayan counterpart personnel in Japan 3) Equipment supplies											

ANNEX D TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION FOR FOLLOW-UP PROGRAMME

YEAR	1990												
	4	5	6	7	8	9	10	11	12				
MONTH													
ITEM													

DISPATCH OF JAPANESE EXPERTS 2w-3w 2w-3w

COUNTERPART TRAINING IN JAPAN 2M 2M

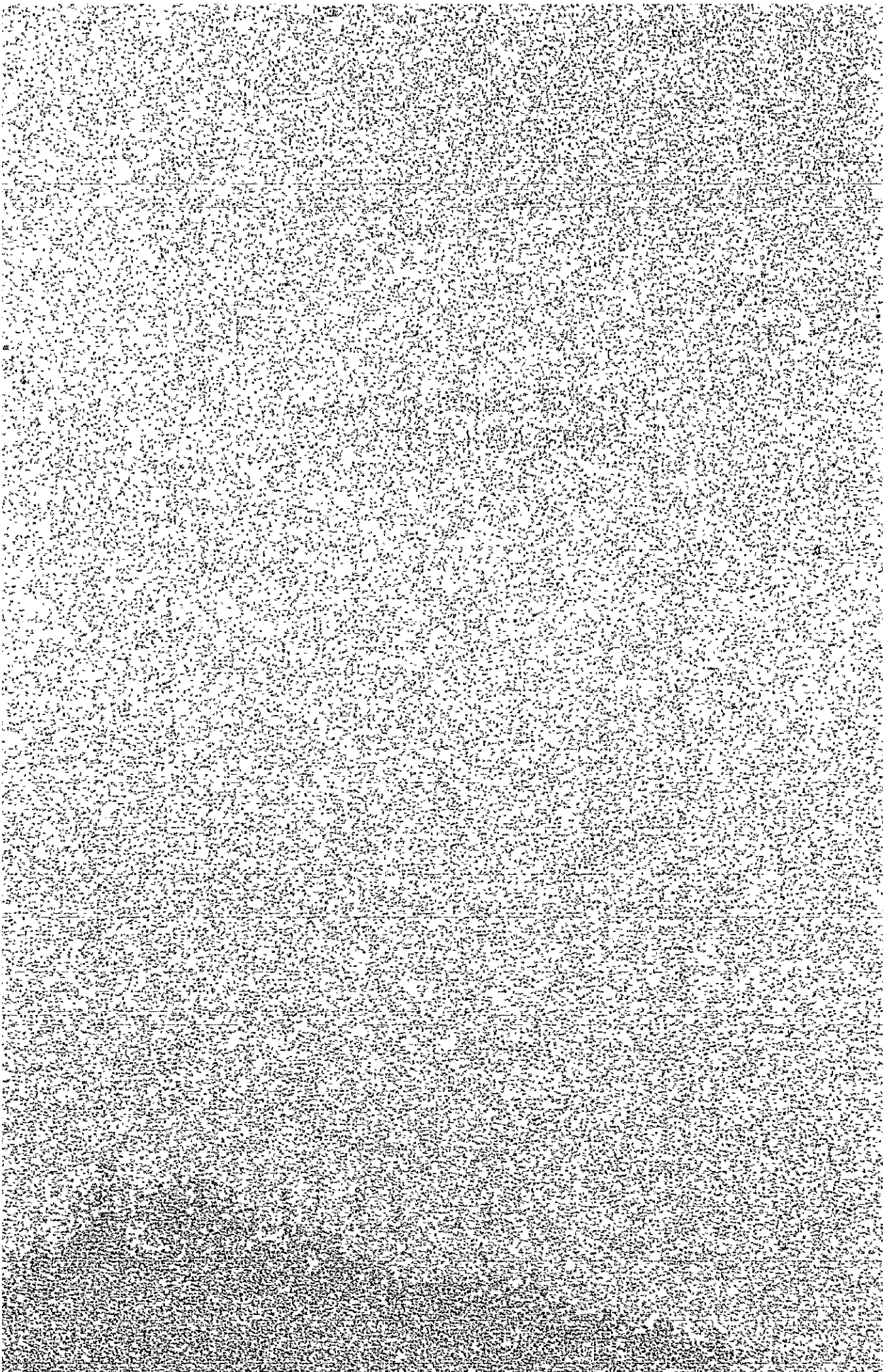
EQUIPMENT SUPPLY As early as possible

NOTE: This programme is subject to change by mutual consultation.

Y. Hara

S.O

③ 実施協議調査団討議議事録 (R/D)
及び暫定実施計画 (T.S.I.)



討議録事録 (R/D) と暫定 5 力年実施計画
実施協議調査団

討議録事録

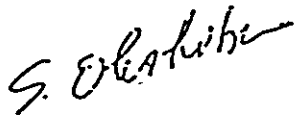
THE RECORD OF DISCUSSIONS
BETWEEN THE JAPANESE IMPLEMENTATION SURVEY TEAM
AND THE AUTHORITIES CONCERNED
OF THE GOVERNMENT OF THE ORIENTAL REPUBLIC OF URUGUAY
ON THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR THE GASTROENTEROLOGY PROJECT

The Japanese Implementation Survey Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Prof. Dr. Saburo Ohshiba visited the Oriental Republic of Uruguay from January 9 to January 14, 1984, for the purpose of working out the details of the technical cooperation program concerning the Gastroenterology Project.

During its stay in the Oriental Republic of Uruguay, the Team exchanged views and had a series of discussions with the Uruguayan authorities concerned in respect of the desirable measures to be taken by both Governments for the successful implementation of the above-mentioned project.


As a result of the discussions, both parties agreed to recommend to their respective Governments the matters referred to in the document attached hereto.

January 12, 1984.


Prof. Dr. Saburo Ohshiba
Leader
Implementation Survey Team
Japan International Cooperation
Agency

JAPAN

For the Rector of the University
of the Republic


Dr. Enrique Boix
Rector-in-charge
University of the Oriental
Republic of Uruguay

URUGUAY

THE ATTACHED DOCUMENT

I. COOPERATION BETWEEN BOTH GOVERNMENTS

1. The Government of Japan and the Government of the Oriental Republic of Uruguay will cooperate with each other in implementing the Gastroenterology Project (hereinafter referred to as "the Project") for the purpose of establishing the Gastroenterology Center in the Hospital de Clínicas, Faculty of Medicine, University of the Republic and thus contributing to the promotion of the public health in the Oriental Republic of Uruguay.
2. The Project will be implemented in accordance with the Master Plan which is given in I of Annex.

II. DISPATCH OF JAPANESE EXPERTS

1. In accordance with the laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures through JICA to provide at its own expense services of the Japanese experts as listed in II of Annex through the normal procedures under the technical cooperation scheme of the Government of Japan.
2. The Japanese experts referred to in 1 above and their families will be granted in the Oriental Republic of Uruguay, the privileges, exemptions and benefits no less favorable than those granted to experts and their families of third countries or of international organizations performing similar missions in the Oriental Republic of Uruguay, which will include the following:
 - (1) Exemption from income tax and charges of any kind imposed on or in connection with the living allowances remitted from abroad in relation with the implementation of the Project;
 - 5.0 (2) Exemption from import and export duties and any other charges imposed in respect of personal and household effects including one motor vehicle per each expert which may be

brought into from abroad or taken out of the Oriental Republic of Uruguay;

(3) Free medical services and facilities to the Japanese experts and their families.

III. PROVISION OF MACHINERY AND EQUIPMENT

1. In accordance with the laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures through JICA to provide at its own expense such machinery, equipment and other materials (hereinafter referred to as "the Equipment") necessary for the implementation of the Project as listed in III of Annex through the normal procedures under the technical cooperation scheme of the Government of Japan.
2. The Equipment will become the property of the Government of the Oriental Republic of Uruguay upon being delivered c. i. f. to the Uruguayan authorities concerned at the ports and/or airports of disembarkation, and will be utilized exclusively for the implementation of the Project in consultation with the Japanese experts referred to in II of Annex.

IV. TRAINING OF URUGUAYAN PERSONNEL IN JAPAN

1. In accordance with the laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures through JICA to receive at its own expense the Uruguayan personnel connected with the project for technical training in Japan through the normal procedures under the technical cooperation scheme of the Government of Japan.
2. The Government of the Oriental Republic of Uruguay will take necessary measures to ensure that the knowledge and experience acquired by the Uruguayan personnel from technical training in Japan will be utilized effectively for the implementation of the Project.

V. SERVICES OF URUGUAYAN COUNTERPART AND ADMINISTRATIVE PERSONNEL

1. In accordance with the laws and regulations in force in the Oriental Republic of Uruguay, the Government of the Oriental Republic of Uruguay will take necessary measures to secure at its own expense the necessary services of Uruguayan counterpart and administrative personnel as listed in IV of Annex.
2. The Government of the Oriental Republic of Uruguay will allocate the necessary number of suitably qualified personnel corresponding to each Japanese expert to be dispatched by the Government of Japan as specified in II of Annex for the effective and successful transfer of technology under the Project.

VI. MEASURES TO BE TAKEN BY THE GOVERNMENT OF THE ORIENTAL REPUBLIC OF URUGUAY

1. In accordance with the laws and regulations in force in the Oriental Republic of Uruguay, the Government of the Oriental Republic of Uruguay will take necessary measures to provide at its own expense:

- (1) Land, buildings and facilities as listed in V. of Annex;
- (2) Supply or replacement of machinery, equipment, instrument, vehicles, tools, spare parts and any other materials necessary for the implementation of the project other than those provided through JICA under III above;
- (3) Transportation facilities and travel allowance for the official travel of Japanese experts within the Oriental Republic of Uruguay;
- (4) Suitably furnished accommodations for the Japanese experts and their families.

2. In accordance with the laws and regulations in force in the Oriental Republic of Uruguay, the Government of the Oriental Republic of Uruguay will take necessary measures to meet:

- (1) Expenses necessary for the transportation of the Equipment within the Oriental Republic of Uruguay as well as for the installation, operation and maintenance thereof;
- (2) Customs duties, internal taxes and any other charges, imposed on the Equipment in the Oriental Republic of Uruguay;
- (3) All running expenses necessary for the implementation of the Project.

VII. ADMINISTRATION OF THE PROJECT

1. The University of the Republic will bear overall responsibility for the implementation of the Project.
2. The director of the Hospital de Clínicas, as the Head of the Project, will be responsible for the administrative and managerial matters of the Project.
3. The Japanese experts will give necessary technical guidance and advice to the Uruguayan counterpart personnel on matters pertaining to the implementation of the Project.
4. For the effective and successful implementation of the Project, a Joint Committee will be established with the function and composition as referred to in VI of Annex.

VIII. CLAIMS AGAINST JAPANESE EXPERTS

The Government of the Oriental Republic of Uruguay undertakes to bear claims, if any arises, against the Japanese experts engaged in the Project resulting from, occurring in the course of, or otherwise connected with the discharge of their official functions in the Oriental Republic of Uruguay except for those arising from the willful misconduct or gross negligence of the Japanese experts.

IX. MUTUAL CONSULTATION

There will be mutual consultation between the two Governments on any major issues arising from, or in connection with this Attached Document.

X. TERM OF COOPERATION

The duration of the technical cooperation for the Project under this Attached Document will be five (5) years from April 1, 1984. However, there will be a general review by the Joint Committee on the progress of the implementation of the Project during the third (3) year of the cooperation period in order to assess whether the term of cooperation should be modified for the successful implementation of the Project.



S. O.


I. MASTER PLAN

1. Objectives of the Project

The purpose of the Project is to establish the Gastroenterology Center in the Hospital de Clínicas, Faculty of Medicine, University of the Republic and to strengthen the diagnosis abilities in gastroenterology by integrating endoscopy, radiology, pathology and clinical laboratory.

2. Objectives of the Japanese Technical Cooperation

The objectives of the Japanese technical cooperation program during the term of cooperation are:

- 
- (1) To improve the diagnosis in gastroenterology in the Hospital de Clínicas by upgrading the knowledge and technics of its staffs in endoscopy, radiology, pathology, and clinical laboratory;
 - (2) To train and educate specialists in gastroenterology;
 - (3) To carry out research and study in gastroenterology.

S.O.

II. JAPANESE EXPERTS

1. Experts in the fields of:

(1) Endoscopy

(2) Radiology

(3) Pathology

(4) Clinical Laboratory

2. Special Lecturers for a short period in the fields same as above.



S. D.

VIII. LIST OF EQUIPMENT

- (1) Endoscopies and related equipment and materials
- (2) X-ray unit for general and abdominal examination
- (3) Equipment and materials for pathology.
- (4) Equipment and materials for clinical laboratory
- (5) Ultrasonic diagnostic equipment in digestive system
- (6) Other equipment and materials mutually agreed



50

IV. LIST OF URUGUAYAN COUNTERPART AND ADMINISTRATIVE PERSONNEL

1. Head of the Project
2. Counterpart personnel in the fields of:
 - (1) Endoscopy
 - (2) Radiology
 - (3) Pathology
 - (4) Clinical Laboratory
3. Administrative personnel
 - (1) Administration
 - (2) Accounting
 - (3) Other necessary supporting staff



50

V. LIST OF LAND, BUILDINGS AND FACILITIES

1. Land (Montevideo)

2. Buildings and facilities

(1) Enough space for the Gastroenterology Center in the building of the Hospital de Clínicas

(2) Facilities such as electricity, gas and water supply, sewerage system, telephone and furnitures necessary for the activities under the Project.



S. 0

VI. THE JOINT COMMITTEE

1. Functions

The Joint Committee will meet at least once a year and whenever necessity arises, and work:

- (1) To formulate the Annual Work Plan of the Project in line with the Tentative Schedule of Implementation formulated under the framework of this Record of Discussions;
- (2) To review the overall progress of the technical cooperation program as well as the achievements of the above-mentioned Annual Work Plan;
- (3) To review and exchange views on major issues arising from or in connection with the technical cooperation program.

2. Composition

(1) URUGUAYAN Side:

- (a) Chairman: Director of the Hospital de Clínicas
- (b) Members: Director of Gastroenterology Center
Counterpart Personnel in Endoscopy
Counterpart Personnel in Radiology
Counterpart Personnel in Pathology
Counterpart Personnel in Clinical Laboratory

S. O

(2) JAPANESE Side:

(a) Experts as listed in II of Annex

(b) Members of the Survey Team to be dispatched by JICA, if necessary

Note: Officials of the Embassy of Japan may attend the Joint Committee as observers.



5.0

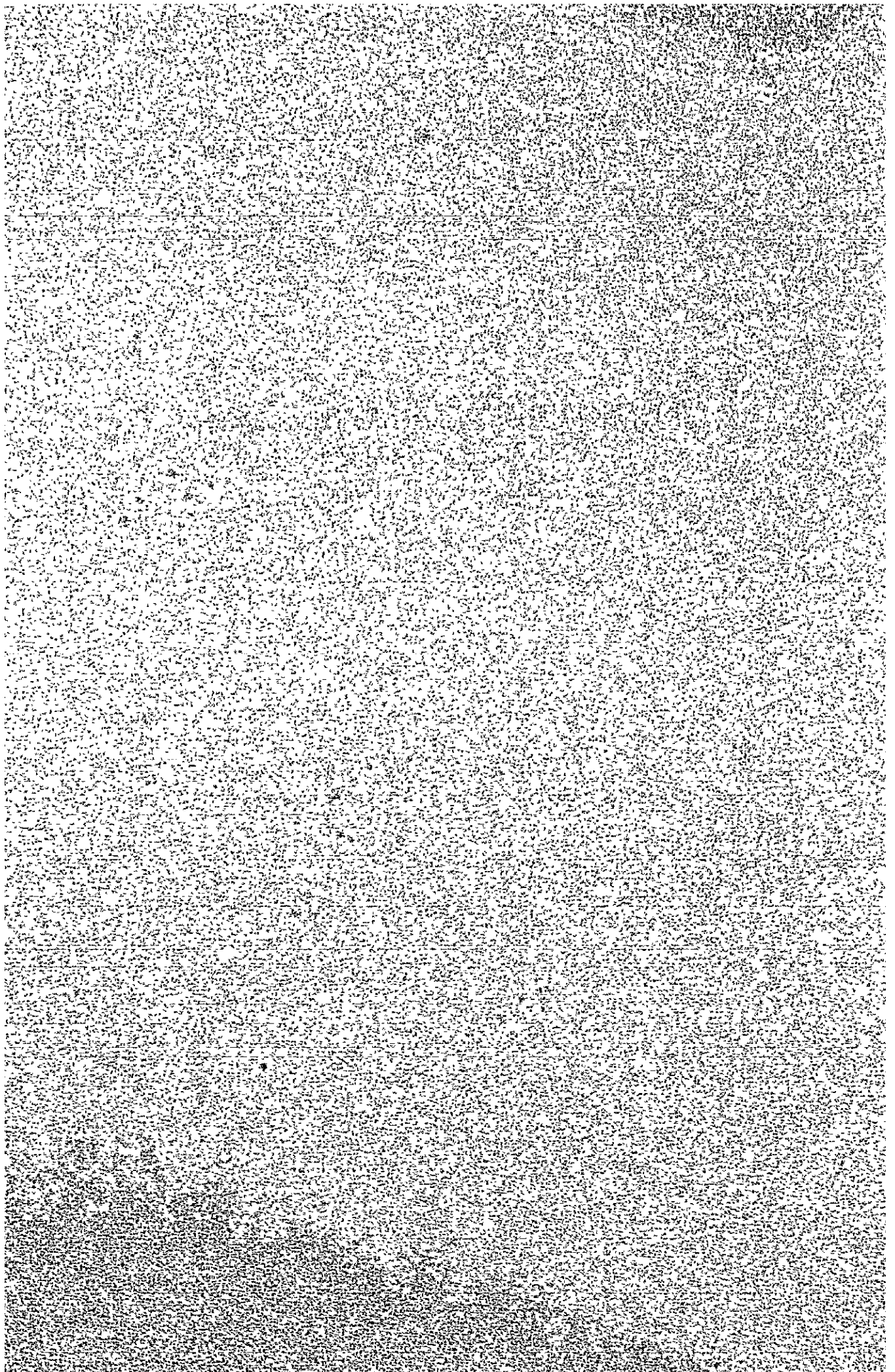
暂定5力年实施計画

TENTATIVE PLAN OF IMPLEMENTATION FOR GASTROENTEROLOGY PROJECT

	FY 1983	FY 1984	FY 1985	FY 1986	FY 1987	FY 1988
TRAINING IN JAPAN		2 ENDOSCOPY 4m. 1 PATHIOLOGY 4m. 1 RADIOLOGY 4m.	1 ENDOSCOPY 4m. 1 PATHOLOGY 4m. 1 CLINICAL LAB 4m.	1 RADIOLOGY 4m. 1 ENDOSCOPY 4m.	ENDOSCOPY PATHIOLOGY	...
EXPERT		ENDOSCOPY 1m. RADIOLOGY 1-2m. RADIOLOGY (TECHNICIAN) 1-2m. SPECIAL LECTURE 1W INSTALLATION 1m.	ENDOSCOPY 1m. PATHOLOGY 1m. (TECHNICIAN) SPECIAL LECTURE 1W INSTALLATION 1m.	RADIOLOGY 1m. CLINICAL LAB 1m. SPECIAL LECTURE 1W	SPECIAL LECTURE -1W
EQUIPMENT		X-RAY UNIT FOR G.I. AUTOMATIC DEVELOPER MACHINE ULTRASONIC DIAGNOSIS EQUIPMENT (G.I.) CONSUMABLES FOR ABOVE	ULTRASONIC DIAGNOSTIC EQUIPMENT WITH MULTICAMERA X-RAY UNIT (GENERAL) EQUIPMENT FOR PATHOLOGY CONSUMABLES FOR ABOVE	ENDOSCOPY EQUIPMENT FOR CLINICAL LAB. CONSUMABLES	...SUPPLEMENTARY EQUIPMENT CONSUMABLES	...SUPPLEMENTARY EQUIPMENT CONSUMABLES
SURVEY TEAM	IMPLEMENTATION (R/D) TEAM			PLANNING AND ADJUSTMENT TEAM	ADVISORY TEAM EQUIPMENT REPAIR TEAM	EVALUATION TEAM
BUILDING ARRANGEMENT		ENDOSCOPY ROOM X-RAY ROOM	CLINICAL LAB.			

NOTE) ... TO BE MUTUALLY AGREED AT THE JOINT COMMITTEE WHEN EXPERTS OR SURVEY TEAMS STAY IN UROGUAY.
2) THIS SCHEDULE IS SUBJECT TO CHANGE BY MUTUAL CONSULTATION.

④ 1986年4月派遣計画打合せ調査団協議議事録
(ミニッツ)及び暫定実施計画(T S I)




MINUTES OF DISCUSSIONS


The Japanese Planning and Consultation Survey Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency and headed by Prof. Dr. Saburo Ohshiba, visited the Oriental Republic of Uruguay from April 21 to April 24, 1986, for the purpose of consulting the implementation of the technical cooperation concerning the Gastroenterology Project.

During its stay in the Oriental Republic of Uruguay, the Team exchanged views and had a series of discussions with the Uruguayan authorities concerned in respect to the past activities and the future implementation schedule in the next three years under the Record of Discussions of the above-mentioned project signed January 12, 1984.

As the result of the discussions, both parties agreed with the matters referred to in the document attached hereto.

Montevideo, April 24, 1986.


Prof. Dr. Saburo Ohshiba
Leader
Japanese Planning and
Consultation Survey Team
J I C A


Dr. Hugo Villar
Director of Hospital de
Clínicas "Dr. Manuel Quintela"

I. DISPATCH OF JAPANESE EXPERTS:

The following Japanese experts are expected to be dispatched.

* Fiscal year 1986

Special lecture team

(Prof. Hidenobu Watanabe, Drs. Makoto Ito, Kimiko Ono, and Masakazu Maruyama).

Short term experts in the field of radiology, endoscopy, pathology and clinical laboratory.

* Fiscal year 1987

Special lecture team

visiting two times.

Short term experts in the field of radiology, endoscopy, pathology and clinical laboratory.

* Fiscal year 1988

Special lecture team

visiting two times.

Short term experts in the field of radiology, endoscopy, pathology and clinical laboratory.

II. COUNTERPARTS TRAINING IN JAPAN:

The following counterpart personnels are expected to be received.

* Fiscal year 1986

Doctors in charge of radiology, pathology and clinical laboratory.

* Fiscal year 1987

Doctors in charge of endoscopy and clinical laboratory.

* Fiscal year 1988

Doctors in charge of radiology and clinical laboratory.

The Uruguayan side strongly requested the training of two more counterpart personnels in Japan each fiscal year 1987 and 1988. The Team promised to convey this request to the authorities concerned in Japan for its favourable consideration.

III. PROVISION OF EQUIPMENTS:

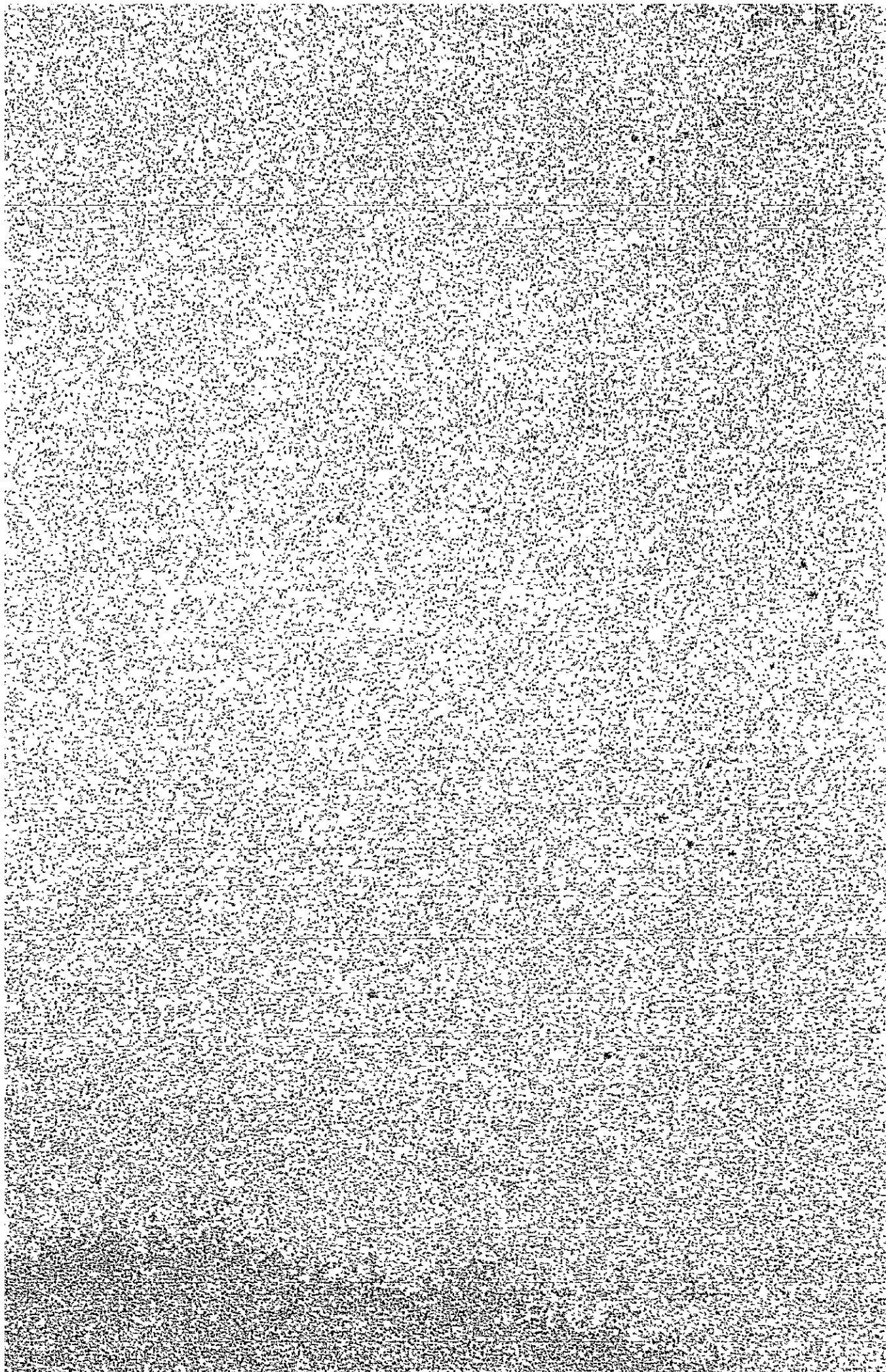
The Uruguayan side requested to the Team the provision of equipments by the lists with the order of priority. The Team promised to convey this request to the authorities concerned in Japan for its favourable consideration.

TENTATIVE PLAN OF IMPLEMENTATION FOR GASTROENTEROLOGY PROJECT (FY1986~88)

	'86 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	[FY1986]	'87 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	[FY1987]	'88 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	[FY1988]
EXPERT						
ENDOSCOPY				1m.		
PATHOLOGY				1m.		
RADIOLOGY				1m.		
CLINICAL LAB.				1m.		
SPECIAL LECTURE						
INSTALLATION		2w.		2w.		2w.
TRAINING IN JAPAN						
SURVEY TEAM						
EQUIPMENT						
			Planning and Consultation Team	Advisory Team	Evaluation Team	
		Supplementary Equipment necessary for the Project	Supplementary Equipment necessary for the Project	Supplementary Equipment necessary for the Project	Supplementary Equipment necessary for the Project	

Note: This schedule is subject to conditions that necessary budget will be acquired for the implementation of the project.

⑤ 1988年11月派遣評価調査団ジョイントエバリュエーションレポート
及びフォローアップ協力に係る協議議事録（ミニッツ）



⑤ ジョイントエバリュエーションレポート

JOINT EVALUATION REPORT

ON

THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION

FOR THE PROJECT

ON

GASTROENTEROLOGY

NOVEMBER, 1988

MONTEVIDEO, THE ORIENTAL REPUBLIC OF URUGUAY

Mutually attested and submitted

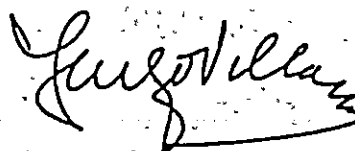
to all concerned

MONTEVIDEO, THE ORIENTAL REPUBLIC OF URUGUAY

NOVEMBER 8, 1988.



Prof. Dr. Saburo Ohshiba
Leader,
Japanese Evaluation Team,
Japan International
Cooperation Agency,
JAPAN



Dr. Hugo Villar
Director,
Hospital de Clínicas,
URUGUAY

Discussion meeting between the Evaluation Team of Japan International Cooperation Agency (JICA) and the Hospital de Clínicas "Dr. Manuel Quintela" on the evaluation of the Japanese Technical Cooperation for the Project on Gastroenterology.

Date: November 7 - November 9, 1988.

Place: Hospital de Clínicas "Dr. Manuel Quintela"
Avenida Italia s/n Montevideo, Uruguay.

Attendance:

JAPANESE PANEL

JAPANESE EVALUATION TEAM

Prof. Dr. Saburo Ohshiba	Leader
Dr. Fukuji Mochizuki	Member
Dr. Hitoshi Katayama	Member
Dr. Masakazu Maruyama	Member
Mr. Shoji Nishikawa	Member

EMBASSY OF JAPAN

Mr. Hiroyasu Fukui	First Secretary
--------------------	-----------------

JICA EXPERT

Mr. Tamaho Hasegawa	Leader
---------------------	--------

URUGUAYAN PANEL

- Dr. Hugo Villar: Director of the University Hospital
- Dr. Lorenzo Peri: Professor Director of the Department of Gastroenterology, and Head of the Gastroenterological Project.
- Dr. Walter Acosta Ferreira: Professor Director of the Department of Pathology.
- Dr. Lucas Acosta: Professor Director of the Clinical Laboratory.
- Dr. Horacio Gutierrez Galiana: Assistant Professor, Head of the Endoscopy Unit.

I. INTRODUCTION

1. OBJECTIVE

The Japanese Evaluation Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (JICA), and headed by Prof. Dr. Saburo Ohshiba visited the Oriental Republic of Uruguay from November 6 to 10, 1988 in order to jointly evaluate with the Uruguayan authorities concerned the past achievements and future prospects of the Japanese Technical Cooperation for the Project on Gastroenterology on the basis of the Record of Discussions signed on January 12, 1984.

The team discussed and studied together with the Uruguayan counterpart personnel concerned on a number of aspects regarding the performance of commitments, achievement of the Gastroenterology Centre of the Hospital de Clínicas "Dr. Manuel Quintela".

Through careful studies and discussions, both sides summarized their findings and observations as described in the following chapters.

2. SUMMARY OF THE PROJECT

The summarized record of implementation of the technical cooperation programme is described below.

JICA has dispatched 1 long-term expert and 23 short-term experts.

16 Uruguayan counterpart personnel were sent to Japan for technical training.

Equipment about 203,300,000 yen was received.

II. METHODOLOGY OF EVALUATION

1. In order to evaluate the past performance and achievements both quantitatively and qualitatively, the following items are adopted as reference:

(1) The Record of Discussions.

(2) The Official requests made by the Government of the Oriental Republic of Uruguay with respect to dispatch of Japanese experts, Uruguayan counterpart personnel training in Japan and provision of equipment by means of Technical Cooperation Forms A-1, A-2/3, and A-4 respectively.

(3) The Record of Discussions signed on January 12, 1984 and the Minutes of Discussions and the Tentative Plan of Implementation agreed on December 11, 1987

(ANNEX 1-2).

2. Both sides also conducted inspections on building, facilities and utilities made available for the Project.

III. RESULT OF EVALUATION

1. Facilities

Upon the signing of the Record of Discussions on January 12, 1984, establishment of the Gastroenterology Centre (C.E.I.E.D.) and installation of the equipment have been completed by the Uruguayan side according to the Tentative Schedule of Implementation attached to the Record of Discussions (ANNEX 1).

(Remarks)

In spite of some difficult condition, the effort made by the Government of Uruguay for the construction of the Gastroenterology Centre and the installation of the equipment, offices, laboratory, etc. is highly appreciated.

2. STAFFING

At present, a total of 89 Uruguayan counterpart personnel have been assigned to the Project for the effective implementation and successful transfer of technology.

The list of the Uruguayan counterpart personnel as of November, 1988, is in ANNEX 3.

3. MANAGEMENT AND ADMINISTRATION

All administrative and managerial services are being provided by the Uruguayan counterpart personnel.

The Joint Committee which consists of delegates from the Hospital de Clínicas "Dr. Manuel Quintela", the Japanese representatives from JICA and the Embassy of Japan as observers were held at least once a year for smooth implementation of the Project. And particularly, the Technical Meeting for the Gastroenterology Center and the installation of its equipment has been adequately held between the Japanese side and the Uruguayan counterpart personnel.

4. JAPANESE EXPERTS

JICA has dispatched 1 long-term expert and 24 short-term experts, whose names are listed in ANNEX 4.

However the dispatch of experts from Japan would be more profitable if they come for at least 3 weeks, to join to the daily work at each Department. Each Japanese expert should be integrated with experts referred exactly to the program being developed.

5. URUGUAYAN COUNTERPART PERSONNEL TRAINING IN JAPAN

16 Uruguayan counterpart personnel were sent to Japan either for observation or technical training, whose names are listed in ANNEX 4.

JICA accepted the Uruguayan counterpart personnel in all fields as agreed in the Record of Discussions, and it is very effective to get the useful information.

The training Doctors in Japan would find better if they could perform the endoscopies by themselves.

The training Doctors in Japan found some difficulties to understand themselves with the Japanese Doctors, due to some language problems.

The number of counterpart was not sufficient in order to accomplish the goals of the program.

6. EQUIPMENT

Between 1984 and 1988 equipments worth about C.I.F. 203.300 thousand yen were donated by the Government of Japan, as shown in ANNEX 4.

The equipments for the Project provided by the Government of Japan have been used efficiently.

Supplementary equipment supply is now on the way. However these equipments were not sufficient to accomplish the aim of the Project, partly due to an increasing number of examinations requested, and partly to difficulties in the maintenance.

7. BUDGET

The Uruguayan side has made efforts to secure the budget necessary for the implementation of the Project.

8. SCOPE OF WORK AND ACCOMPLISHMENT

The Project accomplishment based on the Record of Discussions is shown in ANNEX 4.

9. CONCLUSION AND RECOMMENDATION

As a result of the joint evaluation work and discussions, both sides reached the following conclusions:

1. In general the purpose of the Project on the Record of Discussions is coming to the stage of its target.
2. In accordance with the above observations, it is deemed that some technical cooperation should be followed-up for twelve (12) months in order to attain its purpose.

The different Departments that participate in the Gastroenterological Project have developed the programs adequately to the medical situation in the University Hospital. They have found the results highly positive in spite of some difficulties that could be solved in the course of events. Both the missions of the Japanese experts and the work of the holders of the fellowships, which received training in Japan, have been very profitable to improve our knowledge in the Gastroenterological work. Also the equipments received by the Departments allow to complement efficiently the resources that each Service had before, being of great value in the Program's development.

We hope to achieve the total fulfillment of the Project, according to the original proposals, in April 1990. In this sense it would be necessary to continue both with the missions of Japanese experts and with the fellowships to Uruguayan Doctors, and also with the equipment supply previously granted for each Department. The Uruguayan side expressed the wish to have a two year follow-up cooperation by the Government of Japan. The Japanese mission has now promised to convey the Uruguayan wish to the Government of Japan.

Considering the increasing number of esophageal and colorectal cancer we suggest to begin the following programs:

- 1) Early detection of esophageal cancer.
- 2) Early detection of colorectal cancer.
- 3) Endoscopic management of biliary lithiasis.

This would allow to maintain the scientific links between Japan and Uruguay, developing programs of reciprocal interest for the two Nations.

THE MINUTES OF THE MEETING

BETWEEN THE JAPANESE EVALUATION TEAM AND THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF THE ORIENTAL REPUBLIC OF URUGUAY ON THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION FOR THE PROJECT ON GASTROENTEROLOGY

The Japanese Evaluation Team (hereinafter referred to as "The Team"), organized by Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Dr. Saburo Ohshiba visited the Oriental Republic of Uruguay from November 6 to 10, 1988, exchanged views and had a series of discussions with the Uruguayan authorities concerned for the purpose of evaluating the achievements of the Japanese technical cooperation for the Project on Gastroenterology (hereinafter referred to as "The Project").

As a result of the joint evaluation work and discussions, both sides reached the following conclusions:

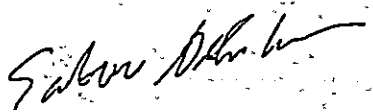
1. In general most activities of the Project as specified in the Record of Discussions are coming to the stage of their targets.
2. The purpose of the Master Plan of the Record of Discussions signed on January 12, 1984, has been almost achieved.

3. The other item 2 of the scope of work is not enough, which still needs JICA's cooperation in order to attain the projected objectives.

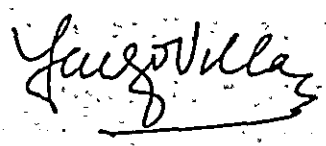
4. In accordance with the above observations, it is deemed that some technical cooperation should be followed-up for twelve (12) months in order to attain its purpose.

In view of the above, both sides agreed to recommend to their respective Government that it is necessary to have a follow-up cooperation for one year from April, 1989 to March 31, 1990 in order to implement the cooperation stated in the ANNEX I.

Montevideo, November 8, 1988.



Prof. Dr. Saburo Ohshiba
Leader,
Japanese Evaluation Team,
Japan International
Cooperation Agency,
JAPAN



Dr. Hugo Villar
Director,
Hospital de Clínicas,
URUGUAY

ANNEX I

1. The major subject for the technical cooperation during the follow-up is as follows:

Technology transfer of the items (1), (2) and (3) in the Master Plan in the Record of Discussions signed on January 12, 1984.

2. Responsibilities to be assumed by both sides are as follows:

1. Uruguayan side

(1) Securing of running cost

2. Japanese side

(1) Dispatch of experts

Short-term experts in esophagus, colon and biliary

(2) Supply of supplementary equipments

(3) Training of counterpart personnel in Japan in the fields of endoscopy and radiology

W. Kelly

S. Oshikubo

3. The Follow-up Programme and the Tentative Schedule of implementation are shown in the ANNEX A and B.

4. Measures to be taken by both sides on the above Cooperation will be treated in the same manner prescribed in the articles of the Record of Discussions signed on January 12, 1984.

W. Miller
S. Ghoshal

FOLLOW-UP PROGRAMME

ANNEX A

SCOPE OF WORK	1988		1989												1990					
	YEAR	MONTH	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
1. Target																				
2. Activity																				

I Early Detection of 1) Esophagus Cancer
2) Colon-rectal Cancer
in the fields of Gastroenterology, Pathology, Radiology
and Laboratory.

II Endoscopic management of biliary lithiasis

- 1) Dispatch of experts from Japan
- 2) Training in Japan
- 3) Equipment supplies
- 4) Repair works of endoscopies supplied before

Muller

S. Oberster

TENTATIVE PLAN OF IMPLEMENTATION
FOR
FOLLOW-UP PROGRAMME

ANNEX B

ITEM	1988		1989												1990				
	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
TRAINING IN JAPAN																			
	<p align="center">1M _____</p> <p align="center">3M _____</p> <p align="center">(1M)* _____</p>																		
DISPATCH OF JAPANESE EXPERTS																		2W	
EQUIPMENT SUPPLY																			2W
	As early as possible																		

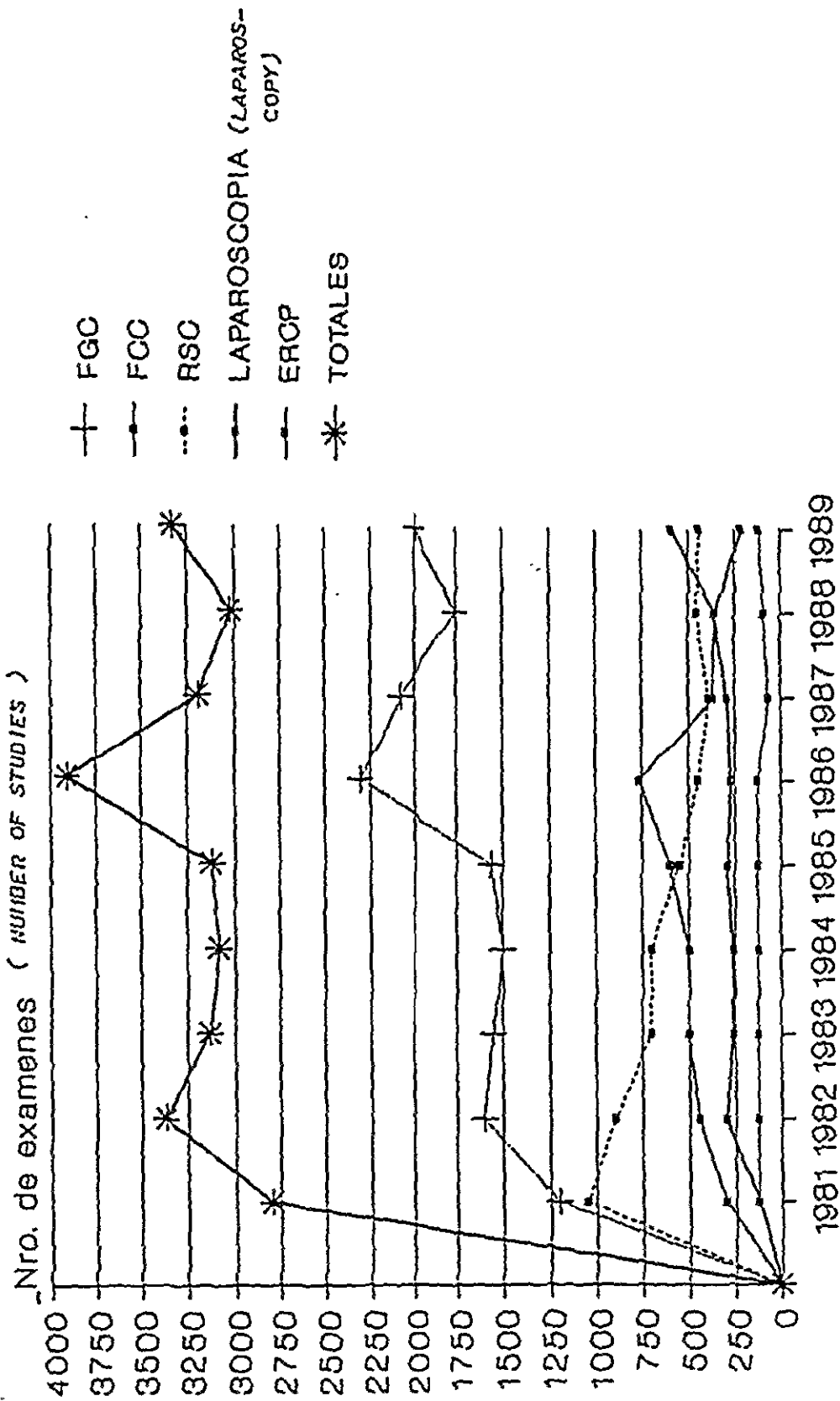
* It depends on the budget availability of Japan

5 Dec 88
Williams

⑥ 共和国大学医学部附属病院消化器病センター消化器
内視鏡科における検査統計資料



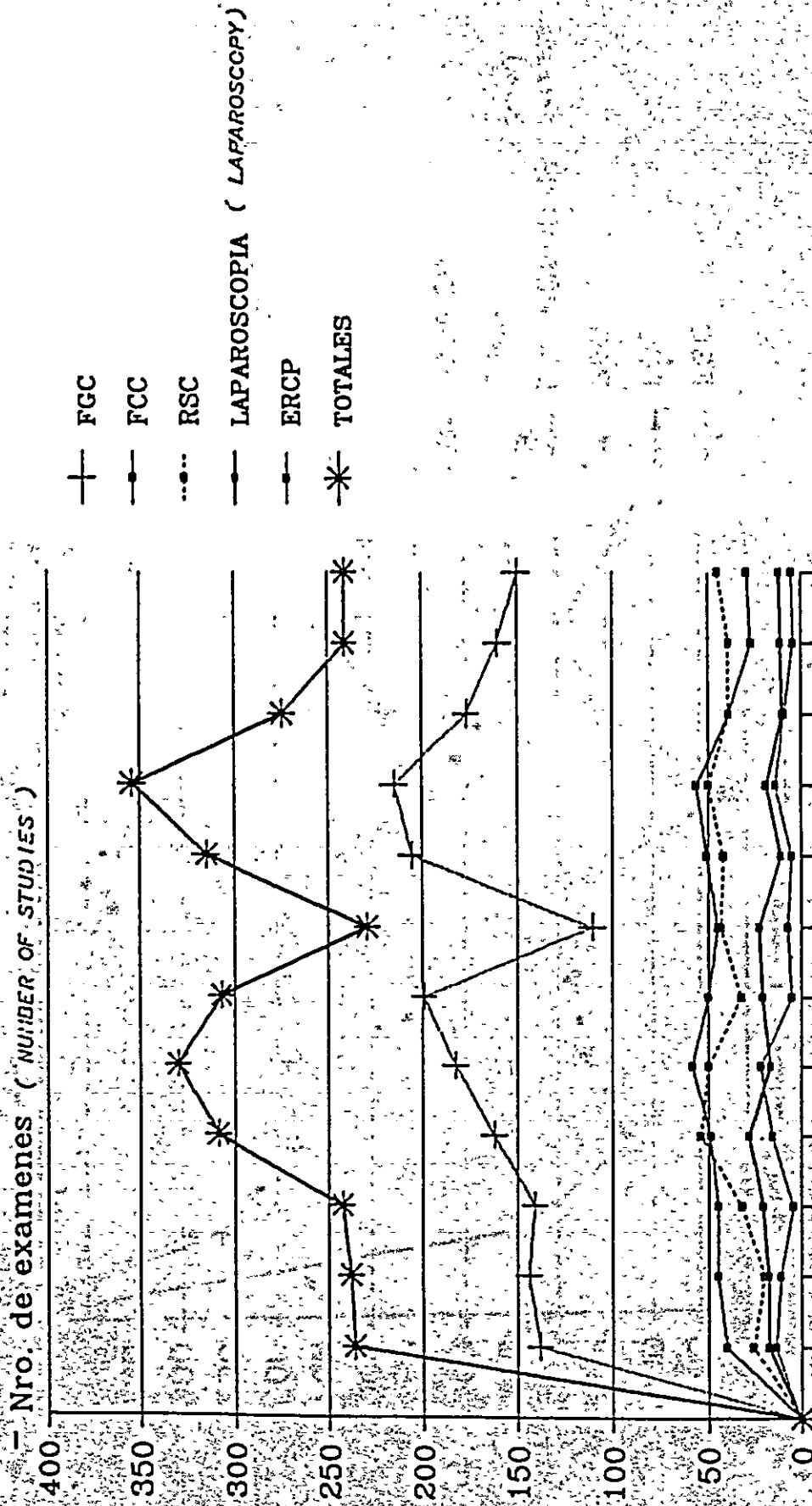
ENDOSCOPIAS ANUALES (YEARLY ENDOSCOPIES)



H.C. - C.E.I.E.D. - D.P.I. - 1989

ENDOSCOPIAS 1989

(ENDOSCOPIES 1989)

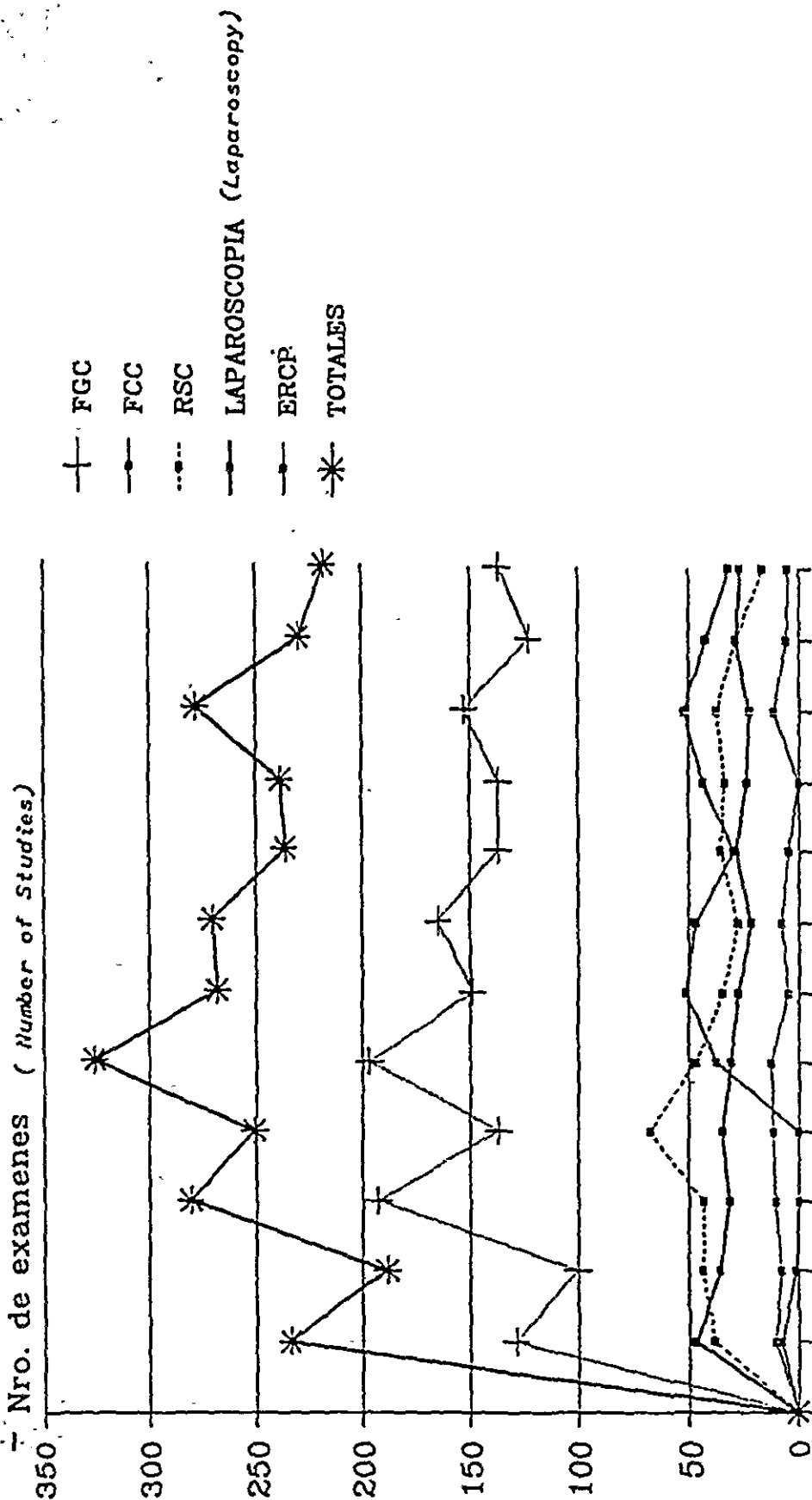


ENE FEB MAR ABR MAY JUN JUL AGO SET OCT NOV DIC
 JAN. FEB. MARCH. APR. MAY. JUNE JULY AUG. SEPT. OCT. NOV. DEC.

H.C. - C.I.R.E.D. - D.P.I. - 1989

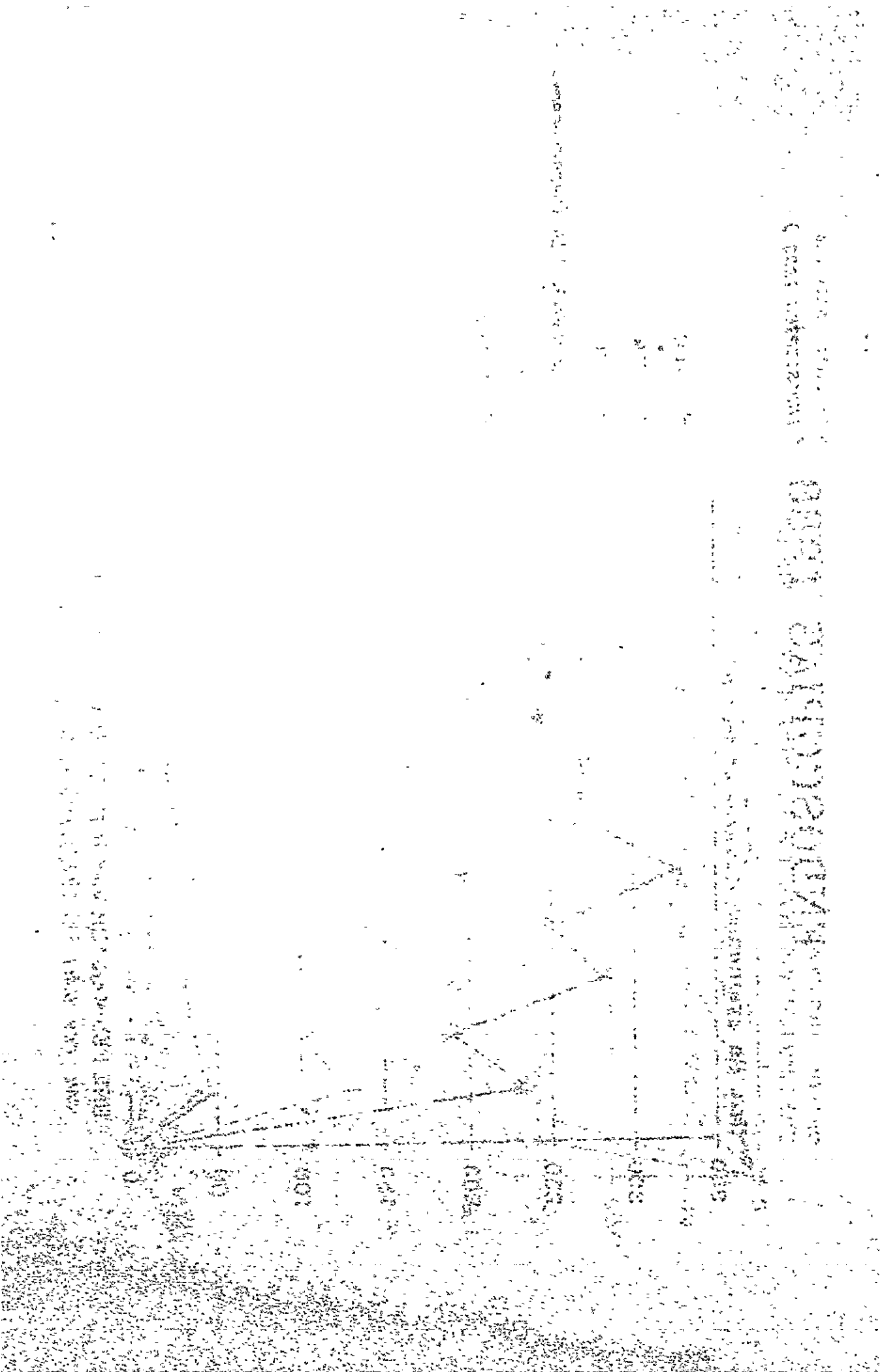
ENDOSCOPIAS 1988

(ENDOSCOPIES 1988)

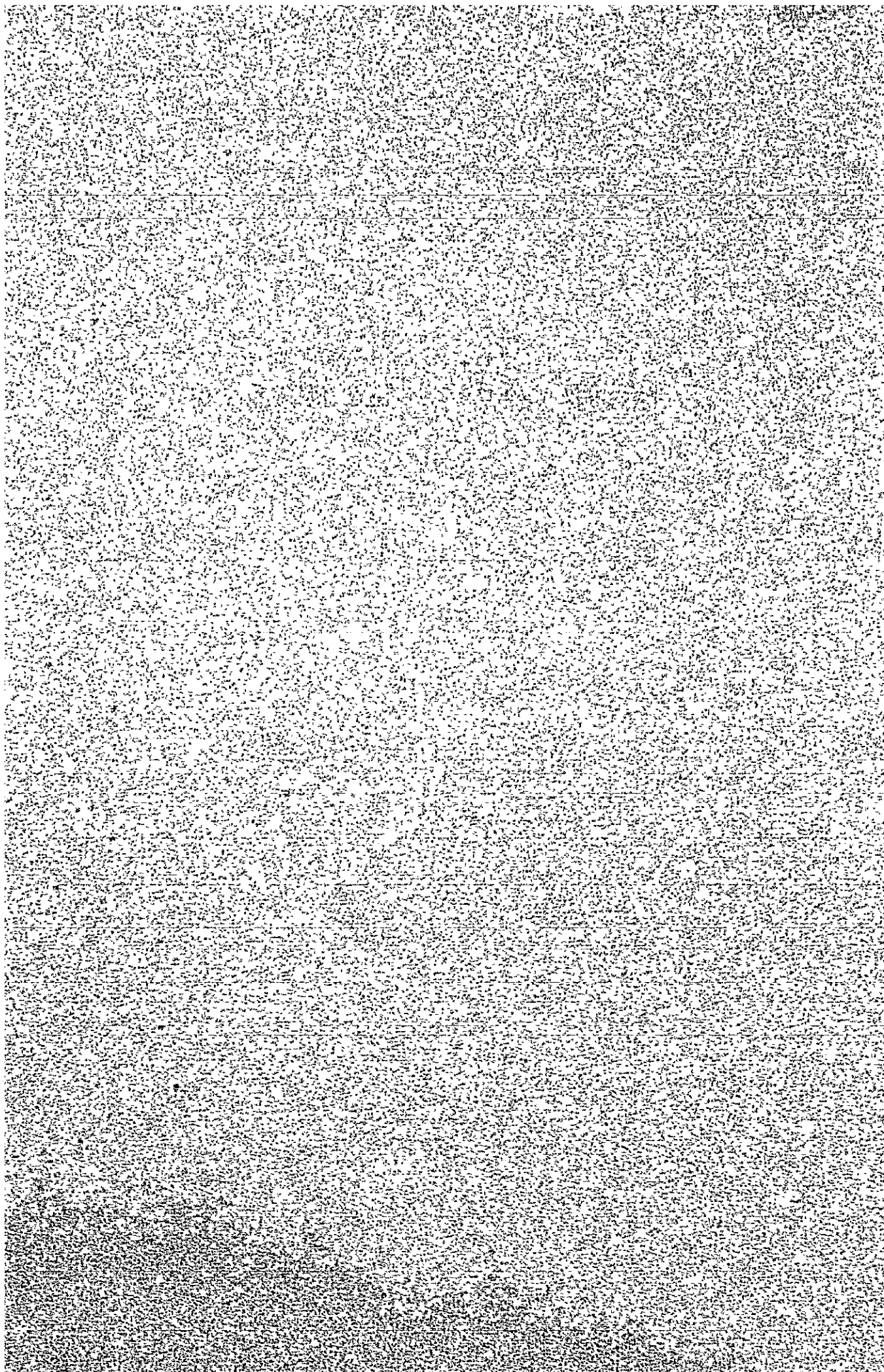


H.C. - C.R.I.E.D. - D.P.I. - 1988

JAN FEB MARCH APR. MAY. JUNE JULY AUG. SEPT. OCT. NOV. DEC.



⑦ 平成元年度（フォローアップ協力）供与機材リスト



品 目	数 量
CV-1 VIDEO SYSTEM CENTER STANDARD SET (S/NO. 7952437)	1SET
MD-071 VTR REMOTE CONTROL BOX A (FOR SONY)	1SET
VO-7630 SONY U-MATIC VIDEO -CASSETTE RECORDER (AC198-264V. PAL/SECAM/NTSC) (S/NO. S01-0018249-A)	1PC.
PVM-1442QM SONY TV MONITOR (S/NO. S01-2002423-X)	1PC.
GIF TYPE XV10 VIDEOIMAGE GASTROINTESTINAL SCOPE STANDARD SET (S/NO. 1901831)	1SET
CF TYPE V10L VIDEO IMAGE COLONOSCOPE STANDARD SET (S/NO. 19113239)	1SET
TJF TYPE V10L VIDEOIMAGE DUODENOSCOPE STANDARD SET (INCLUDING PBD-3Z, 4Z) (S/NO. 1900193)	1SET
GIF TYPE XQ20 OES GASTRO INTESTINAL FIBERSCOPE STANDARD SET (S/NO. 2906023)	1SET
JF TYPE 1T20 OES DUODENOFIBERSCOPE STANDARD SET (S/NO. 2903056)	1SET
KV-2 ENDOSCOPIC SUCTION PUMP 220V (S/NO. 1900859)	1SET
OTV-F2 MEDICAL TV SYSTEM STANDARD SET (220V PAL) (S/NO. 7912179)	1SET
PVM-1442QM SONY TV MONITOR (S/NO. S01-2002387-8)	1PC.
VO-7630 SONY U-MATIC VIDEO -CASSETTE RECORDER (AC198-264V. PAL/SECAM/NTSC) (S/NO. S01-0017138-6)	1PC.
CLV-10 OES XENON LIGHT SOURCE 220V (S/NO. 7952553)	1SET
KD-22Q A-SET PAPILOTOMY KNIFE (PL1530)	2SETS

品 目	数 量
KD-21Q A-SET PAPILOTOMY KNIFE (PLO735)	2SETS
KD-28Q A-SET PAPILOTOMY KNIFE (PLO620)	2SETS
FG-22Q GRASPING FORCEPS (HARD BASKET TYPE)	5SETS
BML-1Q MECHANICAL LITHOTRIPTOR FOG-TJF-10	1SET
OM-4 TI SLR CAMERA BODY (S/NO.1158132)	1SET
HOOD FOR 35MM	1PC.
35MM COLOR REVERSAL FILM 12ROLLS/SET	1PC.
PBD-3Z BILIARY DRAINAGE TUBE SET	5SETS
PBD-4Z BILIARY DRAINAGE TUBE SET	5SETS

番号	品 名 及 び 仕 様	メーカ名	数 量
8	自動細胞収集装置CF-12D (特別付属品)	ザクラ	1台
	(1)12mlチャンバー	"	12
	(2) " " 用ゴム板	"	12
	(3) " " 用ろ紙(250入)	"	1
	(4)6mlチャンバー用ろ紙(250入)	"	1
10	ミクロトーム替刃C-35(20枚入)	"	
11	ミクロトーム自動研磨機用 砥石 NO.8000	"	12 5個
	X線管球(0.3/0.8mm, 250KHU)	東芝	1本
	D.R.X-3.3.3.5HD		

品 目	数量	単位
6. 三眼生物顕微鏡オリンパス	1	
BHS-313 (SP)		
対物レンズ: SPlan 4×、10×、20×、40×、100× (各1)		
接眼レンズ: WHK10×(1)、WHK15×(2)		
写真ファインダー用 35-WHK10×(1)		
写真撮影用レンズ: NFK2.5×(1)、NFK5×(1)		
ハロゲンランプ (6)		
(特別付属品)		
1) 対物レンズ SPlanF1×	1	ヶ
2) " SPlanF12×	1	ヶ
3) 極低倍コンデンサー-BH2-uLC (SPlan 1x~4x用)	1	ヶ
7. 液体窒素用フラスコ	2	ヶ
池本		

JICA